

教科名	国語	科目名	論理国語	単位数	2
対象学年 学科・コース	第2学年普通科 特別進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
論理的文章の読解に必要な言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深める。		多様な見方、考え方に触れ、物事を総合的に捉える力を培うとともに、自らの考えを論理的に表現する。		自ら学び考える意欲を喚起して、主体的に生きていく力をはぐくむ。	
学習内容の概要	教科書掲載の説明的文章を読むことを通して、読解の方法を学ぶとともに、自己の考えを論理的に表現する力を養う。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	三省堂 『精選 論理国語』				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	論理国語へのいざない	「論理力と思考力」	6	思考力と対比して論理力とは何かを考える。	
5		「納得の構造」 「情報のメタ化」	6	論理の組み立てと文章構成の関係について理解する。 情報の「メタ化」を理解し、思考を整理する方法を考える。	
6	「情報社会」を生きる	「ぬくみ」 「ネット上の発言の劣化について」	8	都市生活における事故と他者の関係について考える。 情報の階層化が進む中で「言論の自由」の意味について考える。	
7		「マルジャーナの知恵」	8	「情報の商品化」という資本主義の現象を理解する。	
8		「情報社会について考える」	3	情報社会を生きる上で大切なことは何か考え、発表する。	
9	環境問題を考える。	「世代間倫理としての環境倫理学」 「人類による環境への影響」	7	未来世代への責任という観点から環境問題を考える。 人類史から環境問題を考える。	
10	言葉を見つめるⅠ	「記号を使う動物」 「言葉が作る女と男」	8	記号としての言語について理解する。 言葉とアイデンティティの関係について考える。	
11	生命について考える	「病と化学」 「動的平衡」	8	「痛み」に着目して医療や科学の限界について考える。 生命とは「動的平衡」のシステムであるという考え方を理解する。	
12	芸術について考える	「ミロのヴィーナス」 「空白の意味」	6	ミロのヴィーナスの魅力について考える。 芸術作品における「空白」の意味について考える。	
1	科学技術と人間	「『なぜ』に答えられない科学」	6	科学の知とはどのようなものかを理解する。	
2		「AI時代の『人間』」	6	AIとの対比から「人間」についての理解を深める。	
3	「市民社会」について考える	「『市民』のイメージ」	6	アメリカの陪審制度の事柄をもとに「市民」の意味について考える。	

教科名	国語	科目名	論理国語	単位数	2
対象学年 学科・コース	第2学年普通科 進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
論理的文章の読解に必要な言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深める。		多様な見方、考え方に触れ、物事を総合的に捉える力を培うとともに、自らの考えを論理的に表現する。		自ら学び考える意欲を喚起して、主体的に生きていく力をはぐくむ。	
学習内容の概要	教科書掲載の説明的文章を読むことを通して、読解の方法を学ぶとともに、自己の考えを論理的に表現する力を養う。また、漢字の学習を通して基本的な語彙を学ぶ。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	三省堂『新 論理国語』、尚文出版『常用漢字クリア』				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	論点を整理するために	「若者に友達プレッシャー」 「常用漢字クリア3級」	6	論点を明確にして筆者の主張を理解する。 漢字の学習を通して、語彙を増やす。	
5		「自分を捉えなおす」 「情報を整理する」	6	文章構造を理解して、要旨を把握する。 文章の要約を通して、情報を整理する技術を学ぶ。	
6	正しく推論するために	「一人で爆笑」 「常用漢字クリア3級」	8	主張を支える根拠を捉える。 漢字の学習を通して、語彙を増やす。	
7		「カタカナ語を享受すべきか」 「文章をリフォームする」	8	データを整理し書き手の意図を捉える。 自分の意図を的確に伝える文章を書く。	
8	事例の意味を探るために	「それぞれのしっくりくる言葉」	3	主張を支える事例の効果的な使い方について理解する。	
9		「多様な視点から考える」 「常用漢字クリア準2級」	7	事例の妥当性を検証し、説明の方法についての認識を深める。 漢字の学習を通して、語彙を増やす。	
10	構成を吟味し説得力を高めるために	「落語の中の経済学」 「レポートを書く」	8	「落語」を事例として取り上げた筆者の意図を捉えなおす。 伝わりやすい書き方や説得的な書き方についての認識を深める。	
11		「『展示』が伝えるもの」 「常用漢字クリア準2級」	8	文章の構成を理解するとともに、筆者の解釈を自分なりに解釈し理解する。	
12	信頼性を吟味するために	「情報の内容を吟味する」	6	複数のデータを比較することで、そこに示されたデータを整理する。	
1		「なぜ私たちは労働するのか」	6	主張を支える根拠を批評する。	
2	隠れた前提を探すために	「地球上の『旅人』」	6	取り上げられたエピソードやその順番を批評する。	
3		「スポーツとナショナリズム」	6	筆者の主張を成り立たせる論拠を吟味する。	

教科名	国語	科目名	論理国語	単位数	2
対象学年 学科・コース	第2学年普通科 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
論理的な文章の読解に必要な言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深める。	多様な見方、考え方に触れ、物事を総合的に捉える力を培うとともに、自らの考えを論理的に表現する。	自ら学び考える意欲を喚起して、主体的に生きていく力をはぐくむ。

学習内容の概要	教科書掲載の説明的文章を読むことを通して、読解の方法を学ぶとともに、自己の考えを論理的に表現する力を養う。また、漢字の学習を通して基本的な語彙を学ぶ。	
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。	
使用教材	三省堂『新 論理国語』、尚文出版『常用漢字クリア』	

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	論点を整理するために	「若者に友達プレッシャー」 「常用漢字クリア3級」	6	論点を明確にして筆者の主張を理解する。 漢字の学習を通して、語彙を増やす。
5		「自分を捉えなおす」 「情報を整理する」	6	文章構造を理解して、要旨を把握する。 文章の要約を通して、情報を整理する技術を学ぶ。
6	正しく推論するために	「一人で爆笑」 「常用漢字クリア3級」	8	主張を支える根拠を捉える。 漢字の学習を通して、語彙を増やす。
7		「カタカナ語を享受すべきか」 「文章をリフォームする」	8	データを整理し書き手の意図を捉える。 自分の意図を的確に伝える文章を書く。
8	事例の意味を探るために	「それぞれのしっくりくる言葉」	3	主張を支える事例の効果的な使い方について理解する。
9		「多様な視点から考える」 「常用漢字クリア準2級」	7	事例の妥当性を検証し、説明の方法についての認識を深める。 漢字の学習を通して、語彙を増やす。
10	構成を吟味し説得力を高めるために	「落語の中の経済学」 「レポートを書く」	8	「落語」を事例として取り上げた筆者の意図を捉えなおす。 伝わりやすい書き方や説得的な書き方についての認識を深める。
11		「『展示』が伝えるもの」 「常用漢字クリア準2級」	8	文章の構成を理解するとともに、筆者の解釈を自分なりに解釈し理解する。
12	信頼性を吟味するために	「情報の内容を吟味する」	6	複数のデータを比較することで、そこに示されたデータを整理する。
1		「なぜ私たちは労働するのか」	6	主張を支える根拠を批評する。
2	隠れた前提を探すために	「地球上の『旅人』」	6	取り上げられたエピソードやその順番を批評する。
3		「スポーツとナショナリズム」	6	筆者の主張を成り立たせる論拠を吟味する。

教科名	国語	科目名	文学国語	単位数	2
対象学年 学科・コース	2年特別進学コース 文系	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴、修辞などの表現の技法について理解を深め、語彙を豊かにする。	文章の種類をふまえて、内容や構成・展開・描写の仕方などを的確にとらえるとともに、自己の考えを深め表現できる。	作品の内容や解釈をふまえ、人間・社会・自然などに対するものの見方・感じ方・考え方を深める。

学習内容の概要	教科書掲載の文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。語彙や修辞法の知識を深め、自己の考えを深め表現する力を身につける。	
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」・「思考・判断・表現」・「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。	
使用教材	三省堂 精選 文学国語	

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	小説の言葉 詩の言葉	「夜中の汽笛について、あるいは物語の効用について」 「詩はいつでも近いところにある」	6	物語の力について考える 詩の言葉の特徴について理解する
5	小説(一)	「山月記」	6	会話と地の文の関係に着目して、人物像を把握する 小説の寓意について考える
6	詩歌	「今日」「私を束ねないで」 「木に花咲き 短歌」	8	表現形式や修辞の効果に着目し、理解を深める 短歌に詠まれた情景や心情を理解する
7	小説(二)	「ひよこの眼」	8	回想形式に留意して、小説の内容を理解する 非現実的な設定を持つ小説の魅力について考える
8	翻案	「ありとぎりぎりす」	2	翻案小説の魅力について考える
9	戯曲の言葉	戯曲 「書く女(抄)」	8	芝居のせりふと日常会話、戯曲の対話と小説の会話の違いや、戯曲の特徴を理解する
10	小説(三)	「こころ」	8	小説の形式や表現の特色に注意して、登場人物の言動や心情を理解し、作品世界が現代に投げかけている問題について考える
11	評論	「文学の仕事」	8	「文学の力」について考える
12	評論	「お砂糖とスパイスと爆発的な何か」	6	批評について理解を深める
1	評論	「小説はどう読めばいいのか？」—太宰治『斜陽』の語り口	6	語り口の分析を通して小説の読み方を深める
2	読むこと・書くこと・ 語ること	「本を読むと路に迷う」	6	本を読むことの「幸福」について考える
3	読むこと・書くこと・ 語ること	「想像し物語ること」	6	「想像力」のはたらきを理解する

教科名	国語	科目名	文学国語	単位数	2
対象学年 学科・コース	第2学年普通科 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴、修辞などの表現の技法について理解を深め、語彙を豊かにする。	文章の種類をふまえて、内容や構成・展開・描写の仕方などを的確にとらえるとともに、自己の考えを深め表現できる。	作品の内容や解釈をふまえ、人間・社会・自然などに対するものの見方・感じ方・考え方を深める。
学習内容の概要	教科書掲載の文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。語彙や修辞法の知識を深め、自己の考えを深め表現する力を身につける。	
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」・「思考・判断・表現」・「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。	
使用教材	三省堂『新 文学国語』	

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	文学の言葉を感じ取る	「二十億光年の孤独」 「虹の雌雄」	6	日常の言葉とは異なる詩の言葉のはたらき方について理解する。
5	歴史の語り方について考える	「項羽と劉邦－『史記』を読む」	6	「史記」という歴史書を自分なりに味わうことで、歴史書の楽しみ方を考える。
6		「花山天皇の退位－『大鏡』を読む」	8	同じ事件を描く『大鏡』と『栄華物語』の違いを知り、歴史物語の奥深さを味わう。
7	解釈の多様性を楽しむ	「予感」	8	主人公の経験を通して、自分の人生を生きるとはどういうことか、考える。
8		「雉始雛」	3	物語の展開に伴って全容が明かされていく過程を味わう。
9	心情の表現に読みひたる	「山月記」	7	主人公の生き方や人間の運命について考えを深める。
10	作家のストラテジーを読み解く	「少年という名前のメカ」	8	作者が読者に問いかけていることを考える。
11		「パースデイ・ガール」	8	比喩表現の多様さに気づき、解釈を深める。
12	表現の意味を捉え直す	「こころ」	6	作品が描いている人間の心の複雑さを読む。
1	近代の文章に価値を見出す	「永訣の朝」	6	作品が表現していることを考えながら読む。
2		「たけくらべ」	6	作品に描かれた人間の心の機微を読む。
3	現代に甦る歌物語	「古典和歌・近世俳句」	6	読み手を引きつける表現の工夫をする

教科名	国語	科目名	古典探究	単位数	2
対象学年 学科・コース	第2学年普通科 特別進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
古典を学ぶことをとおして、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。		先人のものの見方、感じ方、考え方に触れ、自分の思いや考えを広めたり、深めたりすることができる。		上代から現代に至る多様な話題・題材を読むことを通して国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。	
学習内容の概要	教科書・板書を中心に講義を進める。音読を重視し、また必要に応じて内容理解のためのプリントを配布して補足したり、プリント等による問題演習や口頭での発表を通じて理解を深めさせるよう考慮する。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	大修館書店 『精選 古典探究』				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	説話	「大江山いくのの道」	6	和歌の文化的背景とそれに携わる人物関係をふまえ、「大江山…」の和歌を軸に、人物の言動や心情を読み取る。	
5	故事・逸話	「知音」「画竜点睛」	6	故事成語の意味の成り立ちを理解し、故事・逸話の叙述のおもしろさを味読する。	
6	説話	「安倍晴明」	8	古典に対して興味をもち、古典文学と現代の小説や漫画を読み比べて、時代を越えて描かれる人物や話のおもしろさを味わう。	
7	漢詩－近体詩	「竹里館」「峨眉山月歌」	8	近体詩の形式や表現について理解を深める。	
8	随筆（一）	「家居のつきづきしく」	3	中世的無常観にもとづく、作者のものの見方、感じ方、考え方を理解し、現代人の考え方と比較する。	
9	物語（一）	「初冠」	7	歌物語の特徴、和歌と地の文の関係や表現技巧を理解し味読する。	
10	史伝－『史記』本紀	「鴻門の会」	8	さまざまな人物像をとおして、人間の生き方についての考えを深める。	
11	思想	「賢哉回也」 「不忍人之心」	8	儒家の思想を理解する。	
12	随筆（二）	「中納言参りたまひて」	6	清少納言の感性と機知を理解し、宮廷生活のおもしろさを味わう。	
1	日記	「羽根」	6	作品の持つ虚構性を理解し、和歌などから作者の心情を味わって読む。	
2	小説	「定伯売鬼」	6	物語の筋の展開を正確に把握し、表現や構成の巧みさを鑑賞できる能力を養う。	
3	物語（三）	「花山院の出家」	6	登場人物の関係、その行動や心情をとらえ、人物や事件について、作者がどのように思っているかを考える。	

教科名	国語	科目名	古典探究	単位数	2
対象学年 学科・コース	第2学年普通科 進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
古典を学ぶことをとおして、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。		先人のものの見方、感じ方、考え方に触れ、自分の思いや考えを広めたり、深めたりすることができる。		上代から現代に至る多様な話題・題材を読むことを通して国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。	
学習内容の概要	教科書・板書を中心に講義を進める。音読を重視し、また必要に応じて内容理解のためのプリントを配布して補足したり、プリント等による問題演習や口頭での発表を通じて理解を深めさせるよう考慮する。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	大修館書店 『精選 古典探究』				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	説話	「大江山いくのの道」	6	和歌の文化的背景とそれに携わる人物関係をふまえ、「大江山…」の和歌を軸に、人物の言動や心情を読み取る。	
5	故事・逸話	「知音」「画竜点睛」	6	故事成語の意味の成り立ちを理解し、故事・逸話の叙述のおもしろさを味読する。	
6	説話	「安倍晴明」	8	古典に対して興味をもち、古典文学と現代の小説や漫画を読み比べて、時代を越えて描かれる人物や話のおもしろさを味わう。	
7	漢詩－近体詩	「竹里館」「峨眉山月歌」	8	近体詩の形式や表現について理解を深める。	
8	随筆（一）	「家居のつきづきしく」	3	中世的無常観にもとづく、作者のものの見方、感じ方、考え方を理解し、現代人の考え方と比較する。	
9	物語（一）	「初冠」	7	歌物語の特徴、和歌と地の文の関係や表現技巧を理解し味読する。	
10	史伝－『史記』本紀	「鴻門の会」	8	さまざまな人物像をとおして、人間の生き方についての考えを深める。	
11	思想	「賢哉回也」「不忍人之心」	8	儒家の思想を理解する。	
12	随筆（二）	「中納言参りたまひて」	6	清少納言の感性と機知を理解し、宮廷生活のおもしろさを味わう。	
1	日記	「羽根」	6	作品の持つ虚構性を理解し、和歌などから作者の心情を味わって読む。	
2	小説	「定伯売鬼」	6	物語の筋の展開を正確に把握し、表現や構成の巧みさを鑑賞できる能力を養う。	
3	物語（三）	「花山院の出家」	6	登場人物の関係、その行動や心情をとらえ、人物や事件について、作者がどのように思っているかを考える。	

教科名	地理歴史科	科目名	地理総合	単位数	2
対象学年 学科・コース	第2学年 普通科特別進学コースαβ	履修形態	必修科目	授業形態	【講義】
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
・地理的な空間において社会に参画し、他者と協働するための前提となる基本的な知識を獲得する。		・地理的観点から空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して、当事者として国家・社会などの地理的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。		・近代・現代の社会とそこにおける人間のあり方について関心をもち、自身にひきつけて思考しようとする。 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解し身につけている。	
学習内容の概要	「現代世界の地理的諸課題を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う」という指導要領に示された目標が本科目の目標である。				
評価の観点・ 評価方法	1) 知識・技能…定期テストの得点率(80%)、小テストの得点率(20%) 2) 思考・判断・表現…定期テストの得点率(80%)、小テストの得点率(20%) 3) 主体的に学習に取り組む態度…課題に取り組む態度(10点)、イ) 授業態度(10点)				
使用教材	帝国書院 新詳地理総合				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
				①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度	
4	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差 2節 地図の役割と種類	1 地球上の位置と私たちの生活 2 時差と私たちの生活 1 地球儀と地図 2 身の回りの地図	6	①地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。 ②位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
5	第2章 結び付きを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界	1 現代世界の国家 2 日本の位置や領域 1 国家間の結び付き	6	①方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きについて理解している。 ②現代世界の地域構成について、多面的・多角的に考察し、表現している。	
6	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活	1 大地形と人々の生活 2 変動帯と人々の生活 1 気温・降水と人々の生活 2 大気大循環と人々の生活	4 4	①世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 ③生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
7	乾燥した大陸と太平洋の島々での生活 -オセアニア- モンスーンの影響を受ける地域での生活 -東南アジア-	1 人々をひきつける多様な自然環境 2 自然環境を生かした産業と人々の生活 1 モンスーンの影響を受けてきた人々の生活 2 気候を生かした農業と人々の生活	3 3	①地域によって大きく異なる気候について理解している。 ②多面的・多角的に考察し、表現している。 ③よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
8	3節 世界の言語・宗教と人々の生活	1 世界の言語と人々の生活文化 2 世界の宗教と人々の生活文化	6	①言語と民族の関わり、公用語と人々の生活への影響について理解している。 ②多面的・多角的に考察し、表現している。 ③よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
9	4節 歴史的背景と人々の生活 移民の歴史と人々の生活の関わり -ラテンアメリカ- 植民地支配の歴史と人々の生活の関わり -サハラ以南アフリカ-	1 ヨーロッパ社会の影響が強い文化 2 大土地所有制が生み出した社会構造 3 外国資本による工業化と生活の変化	8	①歴史と人々の生活文化への影響について理解している。 ②人々の生活文化への影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③歴史と人々の生活文化への影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
10	国家体制の変化と人々の生活の関わり -ロシア- 5節 世界の産業と人々の生活	1 国家体制の変化が人々の生活に与えた影響 2 変化するロシアの産業	4 4	①歴史と人々の生活文化への影響について理解している。 ②生活文化への影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③歴史と人々の生活文化への影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
11	産業力が世界の生活文化に与える影響 -アメリカ合衆国- 経済成長による人々の生活の変化 -東アジア-	1 世界に大きな影響力をもつ知識産業と資源 2 世界の食卓に影響を与える農業 3 産業の発展を支えてきた移民の力	3 3	①歴史と人々の生活文化への影響について理解している。 ②生活文化への影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③歴史と人々の生活文化への影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
12	地域統合が人々の生活や産業に与える影響 -ヨーロッパ- 第2章 地球的課題と国際協力	1 EU統合と人々の生活 2 EU統合による農業への影響 3 EU統合による工業や社会への影響	6	①歴史と人々の生活文化への影響について理解している。 ②生活文化への影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③歴史と人々の生活文化への影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
1	第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題	1 多様な地球環境問題 2 熱帯林の破壊への対策 3 地球温暖化への対策	6	①地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。 ②主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
2	3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題 5節 食料問題 6節 都市・居住問題	1 世界のエネルギー・鉱産資源 2 エネルギー利用の現状と課題 3 地域で異なるエネルギー問題への取り組み	6	①国によって異なる電力構成、鉱産資源の利用について理解している。 ②鉱産資源の利用について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
3	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災	1 日本の地形 2 日本の気候	6	①各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的スキルを身に付けている。 ②地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現している。	

教科名	地理歴史科	科目名	地理総合	単位数	2単位
対象学年 学科・コース	第2学年 普通科進学	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
国際理解や国際協力の在り方や地域的な防災などの諸課題への対応を多面的・多角的に考察し、地理的な課題の解決に向けて構想したり、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力、地理的な課題を把握して、考察する力を養っていく。	地理的な課題を主体的に追究、解決しようとする態度や日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情や世界の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

学習内容の概要	地図でとらえる現代世界 国際理解と国際協力 持続可能な地域づくりと私たち				
評価の観点・ 評価方法	基礎的知識を身につけるとともに、地理的な関心と課題意識を高め、意欲的に追求しようとする姿勢に着目する。 定期考査・主体的な学習への取り組み・出席状況などを総合的に評価する。				
使用教材	『高等学校新地理総合』（帝国書院）、『高等学校新地理総合ノート』（帝国書院）				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	第1部 地図でとらえる現代世界 ①地図と地理情報システム ②結び付きを深める現代世界	○地球上の位置と時差 ○地図の役割と種類 ○現代世界の国家と領域、グローバル化する世界	6	○重要語句を習得する。 ○地球儀や地図の見方を理解する。 ○グローバル化について考える。
5	第2部 国際理解と国際協力 ①生活文化の多様性と国際理解	○世界の地形と人々の生活	8	○多様な地形について理解する。 ○人々がこうした地形とどのように関わり合っているか考える。 ○世界各地ではどのような生活が営まれているか考える。
6		○世界の気候と人々の生活	8	○気温や降水、風などの気候要素について理解する。 ○人々の生活がそれぞれの気候要素とどのように関わり合っているか考える。
7		○世界の言語・宗教と人々の生活	6	○日本とは異なる言語を話す民族の存在や宗教について理解する。 ○言語や宗教が人々の生活にどのような影響を与えているか理解する。
8		○歴史的背景と人々の生活	4	○人々の生活文化に対して、歴史的な背景はどのような影響を与えてきたかを理解する。
9		○世界の産業と人々の生活	8	○産業の発展は人々の生活にどのような影響を与えてきたかを考える。 ○産業のグローバル化によって人々の生活はどのように変化してきたかを考える。
10	②地球的課題と国際協力	○地球環境問題	8	○地球的課題の背景には何があるかを理解する。 ○課題の解決に向けて、私たちには何ができるか考える。
11		○資源・エネルギー・人口問題	8	○世界の資源やエネルギーの利用にはどのような課題があるか考える。 ○持続可能なエネルギーの利用方法にはどのようなものがあるか考える。 ○世界には国や地域によってどのような人口問題があり、どのような対策が行われているか考える。
12		○食料問題	6	○世界における食料需給の偏りが生じるのはなぜか考える。 ○食料問題を解決するためにどのような取り組みが必要か考える。
1		○都市・居住問題	6	○世界にはさまざまな規模の都市があることを理解する。 ○国や地域によってどのような都市・居住問題があり、どのような対策が行われているかを考える。
2	持続可能な地域づくりと私たち	○日本の自然環境 ○地震・津波、火山災害と防災	8	○日本の地形や気候にはどのような特徴があるか理解する。 ○地震や津波、火山はどのような被害をもたらすかを理解する。 ○地震や津波、火山の発生に備えてどのような取り組みが必要か考える。
3		○気象災害と防災 ○自然災害への備え ○生活圏の調査と地域の展望	6	○気象災害にはどのような種類があり、どのような被害をもたらすかを考える。 ○自然災害への日頃の備えにはどのようなものがあるか考える。 ○生活圏の課題を探究する方法と課題解決のための展望について考える。

教科名	地理歴史科	科目名	地理総合	単位数	2単位
対象学年 学科・コース	第2学年 普通科総合選択	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
国際理解や国際協力の在り方や地域的な防災などの諸課題への対応を多面的・多角的に考察し、地理的な課題の解決に向けて構想したり、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力、地理的な課題を把握して、考察する力を養っていく。	地理的な課題を主体的に追究、解決しようとする態度や日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情や世界の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

学習内容の概要	地図でとらえる現代世界 国際理解と国際協力 持続可能な地域づくりと私たち				
評価の観点・ 評価方法	基礎的知識を身につけるとともに、地理的な関心と課題意識を高め、意欲的に追求しようとする姿勢に着目する。 定期考査・主体的な学習への取り組み・出席状況などを総合的に評価する。				
使用教材	『高等学校新地理総合』（帝国書院）、『高等学校新地理総合ノート』（帝国書院）				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	第1部 地図でとらえる現代世界 ①地図と地理情報システム ②結び付きを深める現代世界	○地球上の位置と時差 ○地図の役割と種類 ○現代世界の国家と領域、グローバル化する世界	6	○重要語句を習得する。 ○地球儀や地図の見方を理解する。 ○グローバル化について考える。
5	第2部 国際理解と国際協力 ①生活文化の多様性と国際理解	○世界の地形と人々の生活	8	○多様な地形について理解する。 ○人々がこうした地形とどのように関わり合っているか考える。 ○世界各地ではどのような生活が営まれているか考える。
6		○世界の気候と人々の生活	8	○気温や降水、風などの気候要素について理解する。 ○人々の生活がそれぞれの気候要素とどのように関わり合っているか考える。
7		○世界の言語・宗教と人々の生活	6	○日本とは異なる言語を話す民族の存在や宗教について理解する。 ○言語や宗教が人々の生活にどのような影響を与えているか理解する。
8		○歴史的背景と人々の生活	4	○人々の生活文化に対して、歴史的な背景はどのような影響を与えてきたかを理解する。
9		○世界の産業と人々の生活	8	○産業の発展は人々の生活にどのような影響を与えてきたかを考える。 ○産業のグローバル化によって人々の生活はどのように変化してきたかを考える。
10	②地球的課題と国際協力	○地球環境問題	8	○地球的課題の背景には何があるかを理解する。 ○課題の解決に向けて、私たちには何ができるか考える。
11		○資源・エネルギー・人口問題	8	○世界の資源やエネルギーの利用にはどのような課題があるか考える。 ○持続可能なエネルギーの利用方法にはどのようなものがあるか考える。 ○世界には国や地域によってどのような人口問題があり、どのような対策が行われているか考える。
12		○食料問題	6	○世界における食料需給の偏りが生じるのはなぜか考える。 ○食料問題を解決するためにどのような取り組みが必要か考える。
1		○都市・居住問題	6	○世界にはさまざまな規模の都市があることを理解する。 ○国や地域によってどのような都市・居住問題があり、どのような対策が行われているかを考える。
2	持続可能な地域づくりと私たち	○日本の自然環境 ○地震・津波、火山災害と防災	8	○日本の地形や気候にはどのような特徴があるか理解する。 ○地震や津波、火山はどのような被害をもたらすかを理解する。 ○地震や津波、火山の発生に備えてどのような取り組みが必要か考える。
3		○気象災害と防災 ○自然災害への備え ○生活圏の調査と地域の展望	6	○気象災害にはどのような種類があり、どのような被害をもたらすかを考える。 ○自然災害への日頃の備えにはどのようなものがあるか考える。 ○生活圏の課題を探究する方法と課題解決のための展望について考える。

教科名	地歴公民科	科目名	日本史探究	単位数	4 単位
対象学年 学科・コース	普通科特別進学 $\alpha$ $\beta$ 第 2 学年	履修形態	必修	授業形態	講義

### 学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
日本史の展開に関わる諸事情を地理的条件・世界史と関連づけながら理解する。諸資料の有効活用もできるようにする。	日本史の展開に関わる事象を世界史と比較し、その歴史的特色を把握する。学習を通して課題を把握し解決に向かう力を養う。	「すべての歴史は現代史である」(クローチェ)とあるように、私たちが直面する課題を見据え歴史追究を行い、自他の歴史を尊重する力を養う。

学習内容の概要	①原始・古代、②中世の流れを理解する。③近世、④近現代史は第 3 学年で修得。	
評価の観点・ 評価方法	小テスト、ノート点検、定期考査など客観的根拠に基づき、総合的に評価する。	
使用教材	「日本史探究」教科書・詳説日本史10分間テスト問題集(山川出版社)・授業者作成問題集	

### 年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	第 1 部 原始・古代 第 1 章 日本文化のあけぼの	1. 旧石器時代 2. 縄文時代 3. 弥生時代(考古学)	4 時間×3 週=12	世界人類文化の発生をふまえ、旧石器・縄文・弥生時代の文化的特色をそれぞれ明らかにする。
5	第 2 章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開	3 続. 弥生時代(文献)	4 時間×3 週=12	文献の存在しない倭・ヤマト政権の社会を、中国史書からのアプローチを通し明らかにする。
6	2 飛鳥の朝廷	4. 古墳時代とその文化	4 時間×4 週=16	「大王」から「天皇」へ、氏姓制度から律令国家体制へ、その変遷の過程を理解する。
7	第 3 章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代	5. 飛鳥時代とその文化	4 時間×3 週=12	乙巳の変から大宝律令の制定まで、政治史の流れを理解する。平城京の仕組みを明らかにする。
8	第 3 章 2 続き 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容	6. 白鳳文化の時代 7. 奈良時代と平安初期政治史	4 時間×2 週=8	奈良時代から平安初期の政治史とその文化的特質について理解する。
9	第 4 章 貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	8. 平安時代とその文化、荘園制の発達	4 時間×4 週=16	中臣鎌足から藤原氏北家の他氏排斥完了まで政治史を理解する。荘園公領制を初期荘園と比較し明らかにする。
10	第 II 部 中世 第 5 章 院政と武士の躍進	8 続. 平安時代と院政期の文化	4 時間×4 週=16	上皇と天皇、藤原摂関家、源平棟梁台頭など諸勢力をふまえ基本的特質を明らかにする。
11	第 6 章 武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会	9. 鎌倉時代(前半)	4 時間×2 週=8	鎌倉幕府の成立過程、承久の乱における公武の優位逆転を明らかにする。
12	第 6 章 続 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化	10. 鎌倉時代(後半)	4 時間×3 週=12	北条執権体制からモンゴル襲来をきっかけとする幕府の衰退を理解する。鎌倉仏教を中心に文化史を整理する。
1	第 7 章 武家政権の成長 1 室町幕府の成立	11. 室町時代(前半)	4 時間×3 週=12	鎌倉幕府滅亡から室町幕府の成立まで複雑な流れを理解する。東アジアの中で日明貿易を考える。
2	第 7 章 続 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化	11. 室町時代(後半)	4 時間×3 週=12	地頭に対する守護の権限拡大、惣村を基盤とする一揆とその特徴、室町文化の特色を明らかにする。
3	第 7 章 4 戦国大名の登場 第 III 部 近世 第 8 章 1 織豊政権	12. 戦国時代	4 時間×2 週=8	戦国大名登場の背景を理解し、地理的条件と関連づけて理解する。「天下」統一の内実を把握する。

教科名	地理歴史科	科目名	日本史探究	単位数	4単位
対象学年 学科・コース	第2学年 普通科進学	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
日本史の展開に関わる諸事象を地理的要件、世界の動向と関連づけながら理解する。史料、統計を活用できる。		日本史の展開に関わる諸事象を世界史のそれと比較検討し、その歴史的特色を考察できる。		現代社会が抱える諸課題の解決に向けて、歴史的背景や成り立ちを踏まえて取り組む姿勢を涵養する。	
学習内容の概要	原始・古代より近世までの通史を理解する。近代・現代については第1学年で履修した歴史総合の学習内容を参照して概観する。				
評価の観点・ 評価方法	①小テスト、②ノート点検、③定期考査、④授業における発問への回答、主体的に学習に取り組む姿勢などから総合的に評価する。				
使用教材	『詳説日本史』（山川出版社、日探705）及び授業者作成資料				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	第1章 日本文化のあけぼの	1. 文化の始まり 2. 農耕社会の成立	12	人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器から弥生文化の時代の社会を理解するとともに、考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。	
5	第2章 古墳とヤマト政権	1. 古墳文化の展開 2. 飛鳥の朝廷	16	集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、東アジアとの交流を踏まえてヤマト政権による国家の形成過程について考察する。政権内の争いなどに着目して、飛鳥時代を考察する。	
6	第3章 律令国家の形成	1. 律令国家への道 2. 平城京の時代	16	律令国家が成立するまでの政治動向を東アジア世界との関係を踏まえて考察し、その体制の状況を多角的・多面的に理解する。	
7		3. 律令国家の文化 4. 律令国家の変容	12	天平文化における政治性と国際性などに着目して国家仏教の展開を理解する。東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。	
8	第4章 貴族政治の展開	1. 摂関政治	8	朝廷内の対立から藤原北家による摂関政治の成立までの過程と政治運営への影響について考察する。	
9	第5章 院政と武士の躍進	2. 国風文化 3. 地方政治の展開と武士 1. 院政の始まり	16	地方統治体制の崩れが公領支配の変質、荘園の拡大をもたらし、それによって武士が成長していったことを理解する。	
10	第6章 武家政権の成立	2. 院政と平氏政権 1. 鎌倉幕府の成立 2. 武士の社会	16	土地支配形態を踏まえて、院政期を理解し、平氏政権の成立とその特性について考察する。鎌倉幕府が地方政権から全行的な武家政権へと成長する過程を理解する。	
11		3. 蒙古襲来と幕府の衰退 4. 鎌倉文化	16	承久の乱に伴う公武関係の変化、執権政治の確立に至る過程を考察し、蒙古襲来による政治・経済・文化への影響が幕府の衰退につながっていくことを理解する。	
12	第7章 武家社会の成長	1. 室町幕府の成立 2. 幕府の衰退と庶民の台頭	12	室町幕府の成立と安定について、東アジアの動向とともに考察する。庶民が社会変革の原動力となったことから、幕府の動揺や下剋上の風潮を理解する。	
1	第8章 近世の幕開け	3. 室町文化 4. 戦国大名の登場 1. 織豊政権	12	世界の動向を踏まえて織豊政権の統一事業と政権の特色を理解する。	
2	第9章 幕藩体制の成立	2. 桃山文化 1. 幕藩体制の成立	16	桃山文化の特徴を国際関係に着目して理解する。江戸幕府の成立による幕藩体制の確立について、政治・経済・社会など多角的・多面的に考察する。	
3		2. 幕藩社会の構造 3. 近世、近現代への展望	12	近世までの歴史の流れを確認し、その影響と歴史的意義について理解し、近代・近現代への影響について考察する。	

教科名	地理歴史	科目名	世界史探究	単位数	4
対象学年 学科・コース	2年特進αβ	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
世界史の展開にかかわる諸事情を地理的条件と関連させ学ばせる		現代世界における諸問題を歴史的背景と関連させ考察させる		世界の国々が抱える課題を自国の現状とリンクさせ考察させる	
学習内容の概要	序章、先史の世界から11章近世ヨーロッパの世界の動向まで				
評価の観点・ 評価方法	世界の歴史の大きな枠組みと課題意識を高め、意欲的に追及しようとする姿勢に着目したい。				
使用教材	詳説世界史（山川出版社）				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	文明の成立	人類の進化から文明	12	西アジア世界の地理的特色を把握しオリエント文明の盛衰を理解する。	
5	東アジアと東南アジア世界	中国・東南アジアの古典文明	12	中国文明の起源、東南アジア世界における国家形成の過程を理解させる。	
6	南アジアと地中海文明	古代インドとギリシア・ローマ文明	16	インド文明の成立と発展、ギリシア・ローマ文明の特質を理解させる。	
7	イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	イスラーム世界と西ヨーロッパの形成	12	イスラーム世界の拡大とヨーロッパ世界が東西に分断される過程を理解させる。	
8	イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	イスラーム世界と西ヨーロッパの形成	8	イスラーム世界の拡大とヨーロッパ世界が東西に分断される過程を理解させる。	
9	ヨーロッパ世界の変容と展開	東ヨーロッパ世界の成立、西ヨーロッパの変容	16	ビザンツ帝国の繁栄と十字軍以降の西ヨーロッパ世界の動向を理解させる。	
10	東アジア世界の展開とモンゴル帝国	東アジア諸地域の自立、モンゴル帝国の発展	16	遊牧諸勢力の台頭とモンゴル帝国の興亡を理解させる。	
11	大交易の時代	アジア交易世界の交流、ヨーロッパの海洋進出	16	アメリカ大陸を含む世界の一体化が始まったことを理解させる。	
12	アジア諸帝国の繁栄	オスマン帝国、サファビー朝、ムガル帝国、清朝	12	オスマン帝国をはじめとする強大な諸帝国がアジアのみならずヨーロッパのに影響を及ぼしたことを理解させる。	
1	アジア諸帝国の繁栄	オスマン帝国、サファビー朝、ムガル帝国、清朝	12	オスマン帝国をはじめとする強大な諸帝国がアジアのみならずヨーロッパのに影響を及ぼしたことを理解させる。	
2	近世ヨーロッパ世界の動向	ルネサンス、宗教改革	12	ルネサンスや宗教改革のもたらした思想的変革の内容を理解させる。	
3	近世ヨーロッパ世界の動向	主権国家体制の成立	12	近代国家の原型となった主権国家の形成とその特色について理解させる。	

教科名	地理歴史	科目名	世界史探究	単位数	4
対象学年 学科・コース	2年進学	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
世界史の展開にかかわる諸事情を地理的条件と関連させ学ばせる		現代世界における諸問題を歴史的背景と関連させ考察させる		世界の国々が抱える課題を自国の現状とリンクさせ考察させる	
学習内容の概要	序章、先史の世界から11章近世ヨーロッパの世界の動向まで				
評価の観点・ 評価方法	世界の歴史の大きな枠組みと課題意識を高め、意欲的に追及しようとする姿勢に着目したい。				
使用教材	詳説世界史（山川出版社）				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	文明の成立	人類の進化から文明	12	西アジア世界の地理的特色を把握しオリエント文明の盛衰を理解する。	
5	東アジアと東南アジア世界	中国・東南アジアの古典文明	12	中国文明の起源、東南アジア世界における国家形成の過程を理解させる。	
6	南アジアと地中海文明	古代インドとギリシア・ローマ文明	16	インド文明の成立と発展、ギリシア・ローマ文明の特質を理解させる。	
7	イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	イスラーム世界と西ヨーロッパの形成	12	イスラーム世界の拡大とヨーロッパ世界が東西に分断される過程を理解させる。	
8	イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	イスラーム世界と西ヨーロッパの形成	8	イスラーム世界の拡大とヨーロッパ世界が東西に分断される過程を理解させる。	
9	ヨーロッパ世界の変容と展開	東ヨーロッパ世界の成立、西ヨーロッパの変容	16	ビザンツ帝国の繁栄と十字軍以降の西ヨーロッパ世界の動向を理解させる。	
10	東アジア世界の展開とモンゴル帝国	東アジア諸地域の自立、モンゴル帝国の発展	16	遊牧諸勢力の台頭とモンゴル帝国の興亡を理解させる。	
11	大交易の時代	アジア交易世界の交流、ヨーロッパの海洋進出	16	アメリカ大陸を含む世界の一体化が始まったことを理解させる。	
12	アジア諸帝国の繁栄	オスマン帝国、サファビー朝、ムガル帝国、清朝	12	オスマン帝国をはじめとする強大な諸帝国がアジアのみならずヨーロッパのに影響を及ぼしたことを理解させる。	
1	アジア諸帝国の繁栄	オスマン帝国、サファビー朝、ムガル帝国、清朝	12	オスマン帝国をはじめとする強大な諸帝国がアジアのみならずヨーロッパのに影響を及ぼしたことを理解させる。	
2	近世ヨーロッパ世界の動向	ルネサンス、宗教改革	12	ルネサンスや宗教改革のもたらした思想的変革の内容を理解させる。	
3	近世ヨーロッパ世界の動向	主権国家体制の成立	12	近代国家の原型となった主権国家の形成とその特色について理解させる。	

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	単位数	3
対象学年 学科・コース	第2学年 特別進学コース(文系)	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・明確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、事象を明確に表現してその特徴を数学的に考察する力、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習内容の概要	多項式の除法、恒等式・不等式の証明(式と証明)。複素数について学び、簡単な3次、4次方程式を解く(複素数と方程式)。座標を用いて図形の性質を調べる(図形と方程式)。三角関数および指数関数と対数関数の性質とグラフについて学ぶ。曲線の接線を求め、関数のグラフをかく。また、曲線で囲まれた図形の面積を計算する(微分法と積分法)。	
評価の観点・評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。	
使用教材	啓林館「数学Ⅱα」、傍用問題集「マスグレード数学Ⅱ」、Libry	

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	式と証明	3次式の展開と因数定理 整式の割り算 恒等式	9	3次式の乗法公式と因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる。多項式の除法について整数の除法と関連付けながら理解し、計算することができる。恒等式について理解する。
5		等式・不等式の証明 高次方程式	9	等式の性質をもとに、等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。不等式の性質や実数の性質をもとに、不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。
6	複素数と方程式	複素数 2次方程式の解と判別式 解と係数の関係	19	数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすることができる。解の範囲を複素数まで拡張したときの2次方程式の解の公式や解の判別について理解する。2次方程式の解と係数の関係、2次式の因数分解について理解し、応用することができる。剰余の定理、因数定理について理解し、多項式の除法や因数分解に応用することができる。さまざまな高次方程式を、因数分解や因数定理を用いて解くことができる。
7		剰余の定理と因数定理 高次方程式		
8	図形と方程式	直線の方程式 2直線の関係 円の方程式	16	座標平面上の直線が1次方程式で表されることを理解する。座標平面上の2直線の関係について、方程式を用いて考察することができる。座標平面上の円がどのように表されるかを理解する。円と直線の位置関係について、方程式を用いて考察することができる。軌跡について理解し、さまざまな軌跡の方程式を求めることができる。
9		円と直線 軌跡と方程式		
10	図形と方程式 三角関数	不等式の表す領域 三角関数の性質 三角関数のグラフ	10	不等式を表す領域について理解し、不等式の表す領域を図示することができる。一般角および弧度法を利用して扇形の弧の長さや面積を求めることができる。三角比の相互関係の拡張として三角関数の相互関係性を理解する。単位円を利用して三角関数のグラフを考察し、その周期性や対称性について理解する。
11	三角関数	三角関数の応用 加法定理 三角関数の合成	13	三角関数を含む方程式や不等式について単位円やグラフと関連させながらその解を求めることができる。加法定理について理解し、ある加法定理を理解して他の加法定理を導くことができる。2倍角の公式や半角の公式を導き、それらを方程式・不等式を解くとき利用することができる。合成について理解し、利用することができる。
12	指数関数と対数関数	指数の拡張 指数関数 対数とその性質	11	累乗の指数について、整数から有理数、実数の範囲に拡張できることを理解する。指数を整数の範囲に拡張しても指数法則が成り立つように、指数が0や負の整数の場合について考察することができる。対数の定義を理解し、指数法則と関連づけながら対数の基本的な性質について理解する。
1	指数関数と対数関数 微分法と積分法	対数関数 常用対数 微分係数	11	対数関数の値の変化やグラフの特徴について、指数関数のグラフと関連付けながら理解する。常用対数を理解し、常用対数表を利用して自然数の累乗の桁数を求めたりする。平均変化率や微分係数について、その図形的な意味も含めて理解する。
2	微分法と積分法	導関数 接線・関数の値の変化 最大値・最小値	10	微分係数を関数的に捉えることで導関数の定義を理解し、関数の定数倍、和差の導関数について考察する。微分係数を利用して、曲線の接線の方程式を求めることができる。導関数の符号と関連付け関数の増加・減少を調べることができる。増減表を利用して区間における最大値・最小値を求めることができる。
3		不定積分 定積分 面積	9	微分法の逆演算として不定積分を理解し、定数倍、和・差の不定積分について考察できる。定積分の定義を理解し、定数倍・和・差の定積分の値を求めたり、定積分の性質について考察したりすることができる。

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	単位数	3
対象学年 学科・コース	第2学年 特別進学コース(理系)	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・明確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、事象を明確に表現してその特徴を数学的に考察する力、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習内容の概要	多項式の除法、恒等式・不等式の証明(式と証明)。複素数について学び、簡単な3次、4次方程式を解く(複素数と方程式)。座標を用いて図形の性質を調べる(図形と方程式)。三角関数および指数関数と対数関数の性質とグラフについて学ぶ。曲線の接線を求め、関数のグラフをかく。また、曲線で囲まれた図形の面積を計算する(微分法と積分法)。	
評価の観点・評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。	
使用教材	啓林館「数学Ⅱα」、傍用問題集「アドバンス数学Ⅱ」、Libry	

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	式と証明	3次式の展開と因数定理 整式の割り算 恒等式	9	3次式の乗法公式と因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる。多項式の除法について整数の除法と関連付けながら理解し、計算することができる。恒等式について理解する。
5		等式・不等式の証明 高次方程式	9	等式の性質をもとに、等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。不等式の性質や実数の性質をもとに、不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。
6	複素数と方程式	複素数 2次方程式の解と判別式 解と係数の関係	19	数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすることができる。解の範囲を複素数まで拡張したときの2次方程式の解の公式や解の判別について理解する。2次方程式の解と係数の関係、2次式の因数分解について理解し、応用することができる。剰余の定理、因数定理について理解し、多項式の除法や因数分解に応用することができる。さまざまな高次方程式を、因数分解や因数定理を用いて解くことができる。
7		剰余の定理と因数定理 高次方程式		
8	図形と方程式	直線の方程式 2直線の関係 円の方程式 円と直線	16	座標平面上の直線が1次方程式で表されることを理解する。座標平面上の2直線の関係について、方程式を用いて考察することができる。座標平面上の円がどのように表されるかを理解する。円と直線の位置関係について、方程式を用いて考察することができる。軌跡について理解し、さまざまな軌跡の方程式を求めることができる。
9		軌跡と方程式		
10	図形と方程式 三角関数	不等式の表す領域 三角関数の性質 三角関数のグラフ	10	不等式を表す領域について理解し、不等式の表す領域を図示することができる。一般角および弧度法を利用して扇形の弧の長さや面積を求めることができる。三角比の相互関係の拡張として三角関数の相互関係を理解する。単位円を利用して三角関数のグラフを考察し、その周期性や対称性について理解する。
11	三角関数	三角関数の応用 加法定理 三角関数の合成	13	三角関数を含む方程式や不等式について単位円やグラフと関連させながらその解を求めることができる。加法定理について理解し、ある加法定理を理解して他の加法定理を導くことができる。2倍角の公式や半角の公式を導き、それらを方程式・不等式を解くとき利用することができる。合成について理解し、利用することができる。
12	指数関数と対数関数	指数の拡張 指数関数 対数とその性質	11	累乗の指数について、整数から有理数、実数の範囲に拡張できることを理解する。指数を整数の範囲に拡張しても指数法則が成り立つように、指数が0や負の整数の場合について考察することができる。対数の定義を理解し、指数法則と関連づけながら対数の基本的な性質について理解する。
1	指数関数と対数関数 微分法と積分法	対数関数 常用対数 微分係数	11	対数関数の値の変化やグラフの特徴について、指数関数のグラフと関連付けながら理解する。常用対数を理解し、常用対数表を利用して自然数の累乗の桁数を求めたりする。平均変化率や微分係数について、その図形的な意味も含めて理解する。
2	微分法と積分法	導関数 接線・関数の値の変化 最大値・最小値	10	微分係数を関数的に捉えることで導関数の定義を理解し、関数の定数倍、和差の導関数について考察する。微分係数を利用して、曲線の接線の方程式を求めることができる。導関数の符号と関連付け関数の増加・減少を調べることができる。増減表を利用して区間における最大値・最小値を求めることができる。
3		不定積分 定積分 面積	9	微分法の逆演算として不定積分を理解し、定数倍、和・差の不定積分について考察できる。定積分の定義を理解し、定数倍・和・差の定積分の値を求めたり、定積分の性質について考察したりすることができる。

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	単位数	3
対象学年 学科・コース	第2学年 進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・明確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、事象を明確に表現してその特徴を数学的に考察する力、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習内容の概要	多項式の除法、恒等式・不等式の証明（式と証明）。複素数について学び、簡単な3次、4次方程式を解く（複素数と方程式）。座標を用いて図形の性質を調べる（図形と方程式）。三角関数および指数関数と対数関数の性質とグラフについて学ぶ。曲線の接線を求め、関数のグラフをかく。また、曲線で囲まれた図形の面積を計算する（微分法と積分法）。	
評価の観点・評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。	
使用教材	啓林館「深進数学Ⅱ」、傍用問題集「Axis数学Ⅱ」、Libry	

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	式と証明	3次式の展開と因数定理 整式の割り算 恒等式	9	3次式の乗法公式と因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる。多項式の除法について整数の除法と関連付けながら理解し、計算することができる。恒等式について理解する。
5		等式・不等式の証明 高次方程式	9	等式の性質をもとに、等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。不等式の性質や実数の性質をもとに、不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。
6	複素数と方程式	複素数 2次方程式の解と判別式 解と係数の関係	19	数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすることができる。解の範囲を複素数まで拡張したときの2次方程式の解の公式や解の判別について理解する。2次方程式の解と係数の関係、2次式の因数分解について理解し、応用することができる。剰余の定理、因数定理について理解し、多項式の除法や因数分解に応用することができる。さまざまな高次方程式を、因数分解や因数定理を用いて解くことができる。
7		剰余の定理と因数定理 高次方程式		
8	図形と方程式	直線の方程式 2直線の関係 円の方程式	16	座標平面上の直線が1次方程式で表されることを理解する。座標平面上の2直線の関係について、方程式を用いて考察することができる。座標平面上の円がどのように表されるかを理解する。円と直線の位置関係について、方程式を用いて考察することができる。軌跡について理解し、さまざまな軌跡の方程式を求めることができる。
9		円と直線 軌跡と方程式		
10	図形と方程式 三角関数	不等式の表す領域 三角関数の性質 三角関数のグラフ	10	不等式を表す領域について理解し、不等式の表す領域を図示することができる。一般角および弧度法を利用して扇形の弧の長さや面積を求めることができる。三角比の相互関係の拡張として三角関数の相互関係性を理解する。単位円を利用して三角関数のグラフを考察し、その周期性や対称性について理解する。
11	三角関数	三角関数の応用 加法定理 三角関数の合成	13	三角関数を含む方程式や不等式について単位円やグラフと関連させながらその解を求めることができる。加法定理について理解し、ある加法定理を理解して他の加法定理を導くことができる。2倍角の公式や半角の公式を導き、それらを方程式・不等式を解くとき利用することができる。合成について理解し、利用することができる。
12	指数関数と対数関数	指数の拡張 指数関数 対数とその性質	11	累乗の指数について、整数から有理数、実数の範囲に拡張できることを理解する。指数を整数の範囲に拡張しても指数法則が成り立つように、指数が0や負の整数の場合について考察することができる。対数の定義を理解し、指数法則と関連づけながら対数の基本的な性質について理解する。
1	指数関数と対数関数 微分法と積分法	対数関数 常用対数 微分係数	11	対数関数の値の変化やグラフの特徴について、指数関数のグラフと関連付けながら理解する。常用対数を理解し、常用対数表を利用して自然数の累乗の桁数を求めたりする。平均変化率や微分係数について、その図形的な意味も含めて理解する。
2	微分法と積分法	導関数 接線・関数の値の変化 最大値・最小値	10	微分係数を関数的に捉えることで導関数の定義を理解し、関数の定数倍、和差の導関数について考察する。微分係数を利用して、曲線の接線の方程式を求めることができる。導関数の符号と関連付け関数の増加・減少を調べることができる。増減表を利用して区間における最大値・最小値を求めることができる。
3		不定積分 定積分 面積	9	

教科名	数学	科目名	数学B	単位数	2
対象学年 学科・コース	第2学年 特別進学コース（文系）	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
数列・統計的な推測について基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。数学と社会生活との関わりについて認識を深める。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付ける。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力を身に付ける。確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を身に付ける。日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付ける。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとし、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとする。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。

学習内容の概要	ある規則にしたがって並ぶ数やその和、および数学的帰納法について学ぶ（数列）。 確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、考察したりする力を養う（確率分布）。 日常の事象や社会の事象を数学化し、問題解決したり、考察する力を養う（数学と社会生活）。
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。
使用教材	啓林館「数学Bα」、傍用問題集「マスグレード数学B+C」、Libry

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	等差数列・等比数列	数列と一般項 等差数列 等比数列	6	数列についての基本的な用語の意味を理解する。等差数列について理解し、一般項や和を求めることができる。等比数列について理解し、一般項や和を求めることができる。
5	いろいろな数列の和	和の記号 $\Sigma$ 累乗の和 階差数列	6	和の記号 $\Sigma$ について理解し、一般項が3次以下の多項式で表される数列の和を求めることができる。階差数列について理解する。また、数列の和と一般項の関係について理解し、一般項を求めることができる。
6		数列の和と一般項 いろいろな数列の和	8	いろいろな数列の和や、群数列について考察することができる。
7	漸化式と数学的帰納法	漸化式 数学的帰納法	11	漸化式について理解し、さまざまな事象の考察に応用することができる。 数学的帰納法について理解し、数学的帰納法を用いてさまざまな命題を証明することができる。
8				
9	確率分布	確率変数と確率分布 確率変数の平均、分散、標準偏差 確率変数 $aX+b$ の平均、分散、標準偏差	7	標本調査の考え方について理解を深める。確率変数、確率分布の意味を理解し、確率分布を求めることができる。確率変数の平均と分散、標準偏差の意味を理解する。また、確率変数 $X$ と $aX+b$ におけるそれらの値の関係について理解し、求めることができる。
10		確率変数の和・積の平均と 和の分散 二項分布	8	確率変数の和の平均、および独立な確率変数の積の平均や和の分散を求めることができる。二項分布の特徴を理解し、二項分布に従う確率変数 $X$ が条件をみたす確率や、 $X$ の平均、分散を求めることができる。
11	正規分布	連続的な確率変数とその分布 正規分布 二項分布の正規分布による近似	8	連続分布、正規分布について理解し、正規分布に従う確率変数が条件を満たす確率を求めることができる。また、正規分布に近似することで二項分布について考察することができる。
12	統計的な推測	母集団と標本 推定 仮説検定 標本調査の活用	12	母集団の平均、分散、標準偏差を求めることができる。母集団分布と標本分布の関係、および標本平均の分布の特徴について理解し、標本平均の平均と標準偏差や、標本平均が条件を満たす確率を求めることができる。得られた標本から母集団の特徴を表す値を推測する方法として、正規分布を利用した信頼区間の考え方を理解し、母平均および母比率を推定することができる。
1				
2	数学と社会生活	日常生活や社会の事象の数学化 部屋割り論法 適切な分配方法 回帰直線	6	日常の事象や社会の事象において、数・量・形やそれらの関係に着目し、理想化したり単純化したりして、問題を数学的に表現し、特徴を見いだして解決する活動を通して、社会生活などにおける問題を、数学を活用して解決する意義について理解する。
3		定幅図形 競技ダンスの順位 暗号	6	

教科名	数学	科目名	数学B	単位数	2
対象学年 学科・コース	第2学年 特別進学コース(理系)	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
数列・統計的な推測について基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。数学と社会生活との関わりについて認識を深める。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付ける。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力を身に付ける。確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を身に付ける。日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付ける。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとし、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとする。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。

学習内容の概要	ある規則にしたがって並ぶ数やその和、および数学的帰納法について学ぶ(数列)。 確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、考察したりする力を養う(確率分布)。 日常の事象や社会の事象を数学化し、問題解決したり、考察する力を養う(数学と社会生活)。
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。
使用教材	啓林館「数学Bα」、傍用問題集「アドバンス数学B+C」、Libry

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	等差数列・等比数列	数列と一般項 等差数列 等比数列	6	数列についての基本的な用語の意味を理解する。等差数列について理解し、一般項や和を求めることができる。等比数列について理解し、一般項や和を求めることができる。
5	いろいろな数列の和	和の記号Σ 累乗の和 階差数列	6	和の記号Σについて理解し、一般項が3次以下の多項式で表される数列の和を求めることができる。階差数列について理解する。また、数列の和と一般項の関係について理解し、一般項を求めることができる。
6		数列の和と一般項 いろいろな数列の和	8	いろいろな数列の和や、群数列について考察することができる。
7	漸化式と数学的帰納法	漸化式 数学的帰納法	11	漸化式について理解し、さまざまな事象の考察に応用することができる。 数学的帰納法について理解し、数学的帰納法を用いてさまざまな命題を証明することができる。
8				
9	確率分布	確率変数と確率分布 確率変数の平均、分散、標準偏差 確率変数 $aX+b$ の平均、分散、標準偏差	7	標本調査の考え方について理解を深める。確率変数、確率分布の意味を理解し、確率分布を求めることができる。確率変数の平均と分散、標準偏差の意味を理解する。また、確率変数 $X$ と $aX+b$ におけるそれらの値の関係について理解し、求めることができる。
10		確率変数の和・積の平均と 和の分散 二項分布	8	確率変数の和の平均、および独立な確率変数の積の平均や和の分散を求めることができる。二項分布の特徴を理解し、二項分布に従う確率変数 $X$ が条件をみたす確率や、 $X$ の平均、分散を求めることができる。
11	正規分布	連続的な確率変数とその分布 正規分布 二項分布の正規分布による近似	8	連続分布、正規分布について理解し、正規分布に従う確率変数が条件を満たす確率を求めることができる。また、正規分布に近似することで二項分布について考察することができる。
12	統計的な推測	母集団と標本 推定 仮説検定 標本調査の活用	12	母集団の平均、分散、標準偏差を求めることができる。母集団分布と標本分布の関係、および標本平均の分布の特徴について理解し、標本平均の平均と標準偏差や、標本平均が条件を満たす確率を求めることができる。得られた標本から母集団の特徴を表す値を推測する方法として、正規分布を利用した信頼区間の考え方を理解し、母平均および母比率を推定することができる。
1				
2	数学と社会生活	日常生活や社会の事象の数学化 部屋割り論法 適切な分配方法 回帰直線	6	日常の事象や社会の事象において、数・量・形やそれらの関係に着目し、理想化したり単純化したりして、問題を数学的に表現し、特徴を見いだして解決する活動を通して、社会生活などにおける問題を、数学を活用して解決する意義について理解する。
3		定幅図形 競技ダンスの順位 暗号	6	

教科名	数学	科目名	数学B	単位数	2
対象学年 学科・コース	第2学年 進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
数列・統計的な推測について基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。数学と社会生活との関わりについて認識を深める。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付ける。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力を身に付ける。確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を身に付ける。日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付ける。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとする。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。

学習内容の概要	ある規則にしたがって並ぶ数やその和、および数学的帰納法について学ぶ(数列)。 確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、考察したりする力を養う(確率分布)。 日常の事象や社会の事象を数学化し、問題解決したり、考察する力を養う(数学と社会生活)。
---------	--

評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。
----------------	---

使用教材	啓林館「深進数学B」、傍用問題集「Axis数学B+C」、Libry
------	-----------------------------------

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	等差数列・等比数列	数列と一般項 等差数列 等比数列	6	数列についての基本的な用語の意味を理解する。等差数列について理解し、一般項や和を求めることができる。等比数列について理解し、一般項や和を求めることができる。
5	いろいろな数列の和	和の記号Σ 累乗の和 階差数列	6	和の記号Σについて理解し、一般項が3次以下の多項式で表される数列の和を求めることができる。階差数列について理解する。また、数列の和と一般項の関係について理解し、一般項を求めることができる。
6		数列の和と一般項 いろいろな数列の和	8	いろいろな数列の和や、群数列について考察することができる。
7	漸化式と数学的帰納法	漸化式 数学的帰納法	11	漸化式について理解し、さまざまな事象の考察に応用することができる。 数学的帰納法について理解し、数学的帰納法を用いてさまざまな命題を証明することができる。
8				
9	確率分布	確率変数と確率分布 確率変数の平均、分散、標準偏差 確率変数 $aX+b$ の平均、分散、標準偏差	7	標本調査の考え方について理解を深める。確率変数、確率分布の意味を理解し、確率分布を求めることができる。確率変数の平均と分散、標準偏差の意味を理解する。また、確率変数 $X$ と $aX+b$ におけるそれらの値の関係について理解し、求めることができる。
10		確率変数の和・積の平均と 和の分散 二項分布	8	確率変数の和の平均、および独立な確率変換の積の平均や和の分散を求めることができる。二項分布の特徴を理解し、二項分布に従う確率変数 $X$ が条件をみたす確率や、 $X$ の平均、分散を求めることができる。
11	正規分布	連続的な確率変数とその分布 正規分布 二項分布の正規分布による近似	8	連続分布、正規分布について理解し、正規分布に従う確率変数が条件を満たす確率を求めることができる。また、正規分布に近似することで二項分布について考察することができる。
12	統計的な推測	母集団と標本 推定 仮説検定 標本調査の活用	12	母集団の平均、分散、標準偏差を求めることができる。母集団分布と標本分布の関係、および標本平均の分布の特徴について理解し、標本平均の平均と標準偏差や、標本平均が条件を満たす確率を求めることができる。得られた標本から母集団の特徴を表す値を推測する方法として、正規分布を利用した信頼区間の考え方を理解し、母平均および母比率を推定することができる。
1				
2	数学と社会生活	日常生活や社会の事象の数学化 部屋割り論法 適切な分配方法 回帰直線	6	日常の事象や社会の事象において、数・量・形やそれらの関係に着目し、理想化したり単純化したりして、問題を数学的に表現し、特徴を見いだして解決する活動を通して、社会生活などにおける問題を、数学を活用して解決する意義について理解する。
3		定幅図形 競技ダンスの順位 暗号	6	

教科名	数学	科目名	数学C	単位数	1
対象学年 学科・コース	第2学年普通科 特別進学コース(文系)	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
ベクトルについて理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習内容の概要	向きと大きさを持った量とその性質について学ぶ(平面上のベクトル・空間のベクトル)。
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。
使用教材	啓林館「数学Cα」、傍用問題集「マスグレード数学B+C」、Libry

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	ベクトルとその演算	ベクトル ベクトルの和、差、実数倍	3	ベクトルの意味、相等などについて理解する。ベクトルの和、差、実数倍、平行、分解について理解し、それらを図示したり求めたりすることができる。また、多項式の演算法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察することができる。
5		ベクトルの成分 ベクトルの内積	3	ベクトルの成分表示について理解し、演算、分解、平行についての問題を成分表示を利用して解くことができる。ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解し、様々な場面に応用することができる。
6		ベクトルのなす角 三角形の面積	4	ベクトルの内積について学んだことを振り返り、平面図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりすることができる。
7	ベクトルと図形	位置ベクトル 位置ベクトルと図形	4	位置ベクトルについて理解し、点の位置や図形の性質について考察することができる。
8		ベクトル方程式	2	ベクトル方程式について理解する。また、条件を満たす点の存在範囲などについて考察することができる。
9	空間のベクトル	空間の点の座標	3	空間の座標について理解し、2点間の距離、座標平面に平行な平面の方程式を求めることができる。
10		空間のベクトル	4	空間におけるベクトルの意味や演算について、平面の場合と関連付けながら理解する。
11		空間のベクトルの内積	4	空間におけるベクトルの内積について理解し、空間図形の考察に応用することができる。
12		位置ベクトル	3	空間における位置ベクトルについて理解し、空間図形の考察に応用することができる。
1	ベクトルの演習	ベクトルとその演算	3	基礎・基本の確実な定着を目指す。
2		位置ベクトル	3	基礎・基本の確実な定着を目指す。
3		空間ベクトル	3	基礎・基本の確実な定着を目指す。

教科名	数学	科目名	数学C	単位数	1
対象学年 学科・コース	第2学年普通科 特別進学コース(理系)	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとする。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。

学習内容の概要	向きと大きさを持った量とその性質について学ぶ(平面上のベクトル・空間のベクトル)。複素数平面、式と曲線について学習する(複素数平面)。
評価の観点・評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。
使用教材	啓林館「数学Ca」、傍用問題集「アドバンス数学B+C」、Libry

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	ベクトルとその演算	ベクトル ベクトルの和、差、実数倍	3	ベクトルの意味、相等などについて理解する。ベクトルの和、差、実数倍、平行、分解について理解し、それらを図示したり求めたりすることができる。また、多項式の演算法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察することができる。
5		ベクトルの成分 ベクトルの内積	4	ベクトルの成分表示について理解し、演算、分解、平行についての問題を成分表示を利用して解くことができる。ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解し、様々な場面に応用することができる。
6		ベクトルのなす角 三角形の面積	4	
7			3	
8	ベクトルと図形	位置ベクトル 位置ベクトルと図形	1	位置ベクトルについて理解し、点の位置や図形の性質について考察することができる。
9		ベクトル方程式	4	ベクトル方程式について理解する。また、条件を満たす点の存在範囲などについて考察することができる。
10	空間のベクトル	空間の点の座標 空間のベクトル	4	空間の座標について理解し、2点間の距離、座標平面に平行な平面の方程式を求めることができる。空間におけるベクトルの意味や演算について、平面の場合と関連付けながら理解する。
11		空間のベクトルの内積 位置ベクトル	4	空間におけるベクトルの内積について理解し、空間図形の考察に応用することができる。空間における位置ベクトルについて理解し、空間図形の考察に応用することができる。
12			3	
1	複素数平面	複素数平面 複素数の極形式	3	複素数平面と、複素数の実数倍、和、差などの図形的な意味を理解する。複素数の極形式、複素数の積、商の図形的な意味を理解する。
2		ド・モアブルの定理 平面図形と複素数	3	ド・モアブルの定理について理解する。また、複素数の累乗根について考察することができる。複素数平面において、さまざまな図形を考察することができる。
3	平面図形と複素数	等式を表す図形	3	複素数平面における角について理解し、三角形の考察に応用することができる。

教科名	数学	科目名	数学C	単位数	1
対象学年 学科・コース	第2学年 進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
ベクトルについて理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習内容の概要	向きと大きさを持った量とその性質について学ぶ（平面上のベクトル・空間のベクトル）。
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。
使用教材	啓林館「深進数学C」、傍用問題集「Axis数学B+C」、Libry

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	ベクトルとその演算	ベクトル ベクトルの和、差、実数倍	3	ベクトルの意味、相等などについて理解する。ベクトルの和、差、実数倍、平行、分解について理解し、それらを図示したり求めたりすることができる。また、多項式の演算法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察することができる。
5		ベクトルの成分 ベクトルの内積	3	ベクトルの成分表示について理解し、演算、分解、平行についての問題を成分表示を利用して解くことができる。ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解し、様々な場面に応用することができる。
6		ベクトルのなす角 三角形の面積	4	ベクトルの内積について学んだことを振り返り、平面図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりすることができる。
7	ベクトルと図形	位置ベクトル 位置ベクトルと図形	4	位置ベクトルについて理解し、点の位置や図形の性質について考察することができる。
8		ベクトル方程式	2	ベクトル方程式について理解する。また、条件を満たす点の存在範囲などについて考察することができる。
9	空間のベクトル	空間の点の座標	3	空間の座標について理解し、2点間の距離、座標平面に平行な平面の方程式を求めることができる。
10		空間のベクトル	4	空間におけるベクトルの意味や演算について、平面の場合と関連付けながら理解する。
11		空間のベクトルの内積	4	空間におけるベクトルの内積について理解し、空間図形の考察に応用することができる。
12		位置ベクトル	3	空間における位置ベクトルについて理解し、空間図形の考察に応用することができる。
1	ベクトルの演習	ベクトルとその演算	3	基礎・基本の確実な定着を目指す。
2		位置ベクトル	3	基礎・基本の確実な定着を目指す。
3		空間ベクトル	3	基礎・基本の確実な定着を目指す。

教科名	数学	科目名	数学総合Ⅰ	単位数	2
対象学年 学科・コース	第2学年 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を養う。また、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習内容の概要	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。
使用教材	啓林館「新編数学Ⅰ・数学A」、傍用問題集「ステップアップノートⅠA」、Libry

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	鋭角の三角比	三角比の値 三角比の相互関係	6	直角三角形における三角比の意味を理解し、三角比の表の使い方を理解する。 三角比を利用した基本的な計量について学習し、三角比の間にどのような関係が成り立つかを理解し、その関係を利用して三角比の値を求められるようにする。
5	鈍角の三角比	$0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ の三角比 三角比の相互関係	6	角の範囲を $0^\circ$ から $180^\circ$ までに広げて三角比を考えられるようにする。単位円を利用して、三角比の値を求めたり、三角比の値から角の大きさを求めたりできるようにする。
6	図形の計量	正弦定理 余弦定理 図形の計量	19	三角形において、3辺の長ささと3つの角の大きさとの間に成り立つ基本的な関係（正弦定理と余弦定理）を理解し、それらを利用して、未知である辺の長さや角の大きさを求めることができるようにする。三角比を利用して、三角形の面積を求める方法を理解する。
7				
8				
9	数学の人間の活動	ユークリッドの互除法 二元一次不定方程式 倍数の判定 位取り記数法とn進法	15	約数や倍数、ユークリッドの互除法、2進法などの整数の性質と人間の活動との関わりについて理解する。また、それらの整数の性質について、関心に基づいて発展させ考察する。
10				
11		座標 地球を測る	8	日常の事象を数学の考えを用いて考察し、問題解決にそれらを利用することができる。また、平面や空間において点の位置を表す座標の考え方と人間の活動との関わりについて理解する。
12		石取りゲーム マスの敷き詰め	6	パズルやゲームなどに数学的な要素を見だし、目的に応じて考察することができるようにする。また、数理的なゲームやパズルを通して、数学と文化との関わりについて理解を深める。
1	数学ⅠAの演習	数と式、集合と命題	6	基礎・基本の確実な定着を目指す。
2		2次関数、図形と計量	6	基礎・基本の確実な定着を目指す。
3		データと分析、場合の数と確率	6	基礎・基本の確実な定着を目指す。

教科名	理科	科目名	物理	単位数	3 単位	
対象学年	第2学年 普通科特別進学コース理系選択		履修形態	必修	授業形態	講義
科目の目標	大学受験を目指す生徒に対し、自然科学の物理分野における一般的な教養を身につけさせることを目標にしている。					
知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度		
科学知識の習得や知識の概念的な理解や、観察・実験操作の基本的な技術を身につけているか。		習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につけているか。		知識・技能の習得や科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につける過程において、主体的に学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。		
学習内容の概要	自然界における現象を基本的な原理・法則に基づいていることを理解する。					
学習方法	実験や視聴覚教材を利用し、演習問題を通して教科書の内容を理解させる。					
評価の観点・評価方法	教務規定に従い評価する。					
使用教材	教科書、実教出版 物理 問題集、実教出版 エクセル物理総合版					
その他	生徒の進路や習熟度に応じて課題提出や問題演習を行う。					

年 間 授 業 計 画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事		
4	1章 さまざまな運動	1節 平面の運動と剛体のつりあい ①運動の表し方 ②落体の運動 ③剛体にはたらく力	80	速度や加速度のベクトルを用いた扱いを十分に理解する。剛体にはたらく力の効果は、力の大きさと向きのほかに、作用線の位置により決まることを理解する。	始業式		
5		2節 運動量 ①運動量と力積 ②運動量の保存 ③衝突とエネルギー		運動の法則から力積と運動量の関係が導かれ、これをもとに物体の衝突や分裂などの現象を扱う方法を理解する。反発係数は衝突直後と直前における2物体の相対速度の大きさの比で表されることを理解する。	中間考査		
6		3節 円運動と単振動 ①等速円運動 ②慣性力 ③単振動		等速円運動における物体の速さ、角速度、回転数、周期などを用いて表し、これらの中に成り立つ関係を学習する。等速円運動をする物体の直径方向への正射影が単振動であることを理解する。ケプラーの法則と運動方程式とから万有引力の公式が得られることを、惑星の運動を等速円運動とみなした場合について導きだす過程を示す中で理解する。	期末考査		
7		4節 万有引力 ①ケプラーの法則 ②万有引力 ③万有引力による位置エネルギー			終業式		
8		5節 気体分子の運動 ①気体の状態方程式 ②気体分子の運動 ③気体の内部エネルギー ④気体の状態変化			始業式		
9					中間考査		
10							
11					期末考査		
12		2章 波		1節 波の伝わり方 ①波の表し方 ②波の伝わり方	37	波が伝わるということ・振動の伝播と波形から波の概念を理解し、波はエネルギーを運び、情報を伝えることを理解する。波の独立性や重ね合わせの原理・ホイヘンスの原理・反射、屈折の法則など波の性質を理解する。	終業式
1				2節 音波 ①音の性質 ②ドップラー効果		音波は空気や水を伝える縦波であるということや、音の三要素・音の反射・屈折・回折・干渉などの性質や「ドップラー効果」について理解する。	始業式
2				3節 光 ①光の性質 ②レンズと球面鏡		光の波動性を実験や観察を通して理解する。作図によってレンズの式を幾何学的に導き、レンズの性質を理解する。	期末考査
3	③回折と干渉		レンズによってできる像の種類としくみを理解する。さまざまな場合における光の干渉条件を理解する	終業式			

教科名	理科	科目名	化学基礎	単位数	2 単位
対象学年	第 2 学年 特別進学コース文系	履修形態	必修	授業形態	講義
知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度	
科学知識の習得や知識の概念的な理解や、観察・実験操作の基本的な技術を身に付けているか。		習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につけているか。		知識・技能の習得や科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につける過程において、主体的に学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。	
科目の目標	自然の事物・現象について、化学的に考察する能力と態度を身に付ける。				
学習内容の概要	自然界における現象が基本的な原理・法則に基づいていることを理解する。				
学習方法	実験や視聴覚教材を利用しながら、教科書の内容を理解する。				
評価の観点・評価方法	教務規定に従い評価する。				
使用教材	数研出版「新編化学基礎」、数研出版「リードlightノート 化学基礎」				
その他	生徒の進路や習熟度に応じて宿題提出を行う。定期考査に副教材からも出題をする。				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	物質の構成	1 混合物と純物質 2 物質とその成分 3 物質の三態と熱運動	9	物質の分類と、元素について理解する。状態変化と化学変化の違いを学ぶ。	始業式
5	物質の構成粒子	1 原子とその構造 2 イオン 3 元素の周期表	9	物質を構成する原子について学び、それから生じるイオンや周期性について理解する。	中間考査
6	粒子の結合	1 イオン結合とイオンからなる物質 2 分子と共有結合 3 共有結合結晶 4 金属結合と金属	10	原子やイオンがどのような力によって結合し物質を作り出しているのかを理解する。また、化学結合に関係する価電子の役割について考える。	期末考査
7					終業式
8	物質と化学反応式	1 原子量・分子量・式量 2 物質質量 3 溶液の濃度 4 化学反応式と物質質量	14	物質の量を表す物質質量について学習し、簡単な計算ができるようにする。化学反応式が表す意味と物質質量の関係を学習し、化学変化の量的関係について理解し計算できるようにする。化学反応におけるモル濃度の有用性を理解する。	始業式
9					
10	酸と塩基の反応	1 酸・塩基 2 水の電離と水溶液のpH 3 中和反応と塩 4 中和滴定	18	酸と塩基の基本的知識を復習し、水素イオンによる新しい酸・塩基の定義を学習する。水素イオンの濃度により酸・塩基の強さを表すpHについて学ぶ。中和反応のしくみを理解し、その量的関係について計算できるようにする。	中間考査
11					期末考査
12					終業式
1	酸化還元反応	1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 金属の酸化還元反応 4 酸化還元反応の利用	18	酸化還元反応を再定義し、電子移動反応として、統一的に理解する。また、金属元素の反応を酸化還元の見点から考え、電池や電気分解の原理を理解する。	始業式
2					期末考査
3					終業式

教科名	理科	科目名	化学基礎	単位数	2 単位
対象学年	第 2 学年 特別進学コース理系	履修形態	必修	授業形態	講義
知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度	
科学知識の習得や知識の概念的な理解や、観察・実験操作の基本的な技術を身に付けているか。		習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につけているか。		知識・技能の習得や科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につける過程において、主体的に学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。	
科目の目標	自然の事物・現象について、化学的に考察する能力と態度を身に付ける。				
学習内容の概要	自然界における現象が基本的な原理・法則に基づいていることを理解する。				
学習方法	実験や視聴覚教材を利用しながら、教科書の内容を理解する。				
評価の観点・評価方法	教務規定に従い評価する。				
使用教材	数研出版「新編化学基礎」、数研出版「リードlightノート 化学基礎」				
その他	生徒の進路や習熟度に応じて宿題提出を行う。定期考査に副教材からも出題をする。				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	物質の構成	1 混合物と純物質 2 物質とその成分 3 物質の三態と熱運動	28	物質の分類と、元素について理解する。状態変化と化学変化の違いを学ぶ。	始業式
	物質の構成粒子	1 原子とその構造 2 イオン 3 元素の周期表		物質を構成する原子について学び、それから生じるイオンや周期性について理解する。	
	5	粒子の結合		1 イオン結合とイオンからなる物質 2 分子と共有結合 3 共有結合結晶 4 金属結合と金属	原子やイオンがどのような力によって結合し物質を作り出しているのかを理解する。また、化学結合に関係する価電子の役割について考える。
6	物質量と化学反応式	1 原子量・分子量・式量 2 物質量 3 溶液の濃度 4 化学反応式と物質量	32	物質の量を表す物質量について学習し、簡単な計算ができるようにする。化学反応式が表す意味と物質量の関係を学習し、化学変化の量的関係について理解し計算できるようにする。化学反応におけるモル濃度の有用性を学習し、質量%濃度との関係を理解する。	期末考査
	7	酸と塩基の反応		1 酸・塩基 2 水の電離と水溶液のpH 3 中和反応と塩 4 中和滴定	
8,9	酸化還元反応	1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 金属の酸化還元反応 4 酸化還元反応の利用	18	酸化還元反応を再定義し、電子移動反応として、統一的に理解する。また、金属元素の反応を酸化還元の見点から考え、電池や電気分解の原理を理解する。	始業式
10					
11					
12					
1					
2					
3					

教科名	理科	科目名	化学基礎	単位数	2 単位
対象学年	第 2 学 年 進 学 コ ー ス	履 修 形 態	必 修	授 業 形 態	講 義
知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度	
科学知識の習得や知識の概念的な理解や、観察・実験操作の基本的な技術を身に付けているか。		習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につけているか。		知識・技能の習得や科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につける過程において、主体的に学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。	
科目の目標	自然の事物・現象について、化学的に考察する能力と態度を身に付ける。				
学習内容の概要	自然界における現象が基本的な原理・法則に基づいていることを理解する。				
学習方法	実験や視聴覚教材を利用しながら、教科書の内容を理解する。				
評価の観点・評価方法	教務規定に従い評価する。				
使用教材	数研出版「新編化学基礎」、数研出版「リードlightノート 化学基礎」				
その他	生徒の進路や習熟度に応じて宿題提出を行う。定期考査に副教材からも出題をする。				

年 間 授 業 計 画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	物質の構成	1 混合物と純物質 2 物質とその成分 3 物質の三態と熱運動	9	物質の分類と、元素について理解する。状態変化と化学変化の違いを学ぶ。	始業式
5	物質の構成粒子	1 原子とその構造 2 イオン 3 元素の周期表	9	物質を構成する原子について学び、それから生じるイオンや周期性について理解する。	中間考査
6	粒子の結合	1 イオン結合とイオンからなる物質 2 分子と共有結合 3 共有結合結晶 4 金属結合と金属	10	原子やイオンがどのような力によって結合し物質を作り出しているのかを理解する。また、化学結合に関係する価電子の役割について考える。	期末考査
7					終業式
8	物質と化学反応式	1 原子量・分子量・式量 2 物質質量 3 溶液の濃度 4 化学反応式と物質質量	14	物質の量を表す物質質量について学習し、簡単な計算ができるようにする。化学反応式が表す意味と物質質量の関係を学習し、化学変化の量的関係について理解し計算できるようにする。化学反応におけるモル濃度の有用性を理解する。	始業式
9					
10	酸と塩基の反応	1 酸・塩基 2 水の電離と水溶液のpH 3 中和反応と塩 4 中和滴定	18	酸と塩基の基本的知識を復習し、水素イオンによる新しい酸・塩基の定義を学習する。水素イオンの濃度により酸・塩基の強さを表すpHについて学ぶ。中和反応のしくみを理解し、その量的関係について計算できるようにする。	中間考査
11					期末考査
12					終業式
1	酸化還元反応	1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 金属の酸化還元反応 4 酸化還元反応の利用	18	酸化還元反応を再定義し、電子移動反応として、統一的に理解する。また、金属元素の反応を酸化還元の見点から考え、電池や電気分解の原理を理解する。	始業式
2					期末考査
3					終業式

教科名	理科	科目名	化学	単位数	3 単位
対象学年	第 2 学年 特進コース(理系)	履修形態	必修	授業形態	講義
知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度	
科学知識の習得や知識の概念的な理解や、観察・実験操作の基本的な技術を身に付けているか。		習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につけているか。		知識・技能の習得や科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につける過程において、主体的に学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。	
科目の目標	自然の事物・現象について、化学的に考察する能力と態度を身に付ける。				
学習内容の概要	自然界における現象が基本的な原理・法則に基づいていることを理解する。				
学習方法	教科書の内容を主に講義によって授業を行う。問題集は原則として各自が自宅で学習する。				
評価の観点・評価方法	規定に従い評価する。				
使用教材	数研出版「新編 化学」、数研出版「リードLightノート 化学」				
その他	生徒の進路や習熟度に応じて宿題提出を行う。定期考査に副教材からも出題をする。				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	(この期間中は授業計画が適用されず、夏休みとなります)				
5					
6					
7					
8					
9	物質の変化	電池と電気分解	10	電池・電気分解のしくみを理解し、ファラデーの法則について演習を通して体得する。	中間考査
10	物質の状態	固体の構造	5	化学基礎の復習をする。金属の結晶格子について学び、計算方法も体得する。	
		物質の状態変化	7	気液平衡の概念や状態変化にともなう熱の出入りについて理解する。	
		気体	16	気体の体積と圧力と温度の関係を理解し、計算方法を体得する。	
11	物質の状態	溶液	14	溶解のしくみや希薄溶液でおこる現象を理解し、計算方法を体得する。	期末考査
12		物質の変化	化学反応とエネルギー	15	
1	物質の状態	化学反応と速さのしくみ	12	さまざまな化学反応において、その反応の速さの違いや、化学平衡の状態について学ぶ。	終業式 始業式
		化学平衡	29		
		1			
2	物質の状態	化学平衡	29		期末考査
3					
3	無機物質	非金属元素	9	元素を周期表に基づいて分類し、単体や化合物の性質を広く学ぶ。	終業式

教科名	理科	科目名	生物	単位数	3 単位
対象学年	第2学年特進理系生物選択	履修形態	必修	授業形態	講義
知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度	
科学知識の習得や知識の概念的な理解や、観察・実験操作の基本的な技術を身に付けているか。		習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につけているか。		知識・技能の習得や科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につける過程において、主体的に学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。	
科目の目標	大学受験を目指す生徒に対し、自然科学の一般的な教養を身につけさせると同時に、共通テストに必要な学力をつけさせることを目標とする。				
学習内容の概要	教科書の内容に準じた知識の習得と、自然科学の探求に必要な思考力を問う。				
学習方法	演示実験や生徒実験および視聴覚教材を利用しながら教科書の内容を理解させる。また、問題演習を通じて思考力や計算力を身につけさせる。				
評価の観点・評価方法	教務規定に従い評価する。				
使用教材	教科書、 数研出版 生物 問題集、 数研出版 新課程リードLightノート 生物				
その他	生徒の進路や習熟度に応じて宿題提出を行なう				
年 間 授 業 計 画					
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	第1編 生物の進化	第1章 生物の進化 1. 生命の起源と生物の進化 2. 遺伝子の変化と多様性 3. 遺伝子の組み合わせと変化 4. 進化のしくみ 5. 生物の系統と進化 6. 人類の系統と進化	38	生命の起源として、無機物から有機物が生じ、有機物の集まりから細胞が生じたと考えられていることを理解する。生物が代謝を通じて地球の環境を変化させてきたこと、地球の環境の影響を受けて生物が進化してきたことを理解する。 生物の形質の変化は、遺伝子の変化によって生じることを理解する。突然変異によって、遺伝的な多様性が生じることを理解する。 減数分裂の過程では、染色体の乗り換えによって遺伝子の組み換えが起こることを理解する。有性生殖においては、親から子へと遺伝子が受け継がれる過程で、遺伝子の組み合わせが変化することを理解する。 遺伝的浮動と自然選択によって遺伝子頻度が変化することを理解する。隔離によって種分化が生じやすくなることを理解する。 DNAの塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列から、生物の系統を推定できることを理解する。生物が系統に基づいて3つのドメインに分類されることを理解する。 人類が霊長類のうちの類人猿から進化したことを理解する。人類の特徴として直立二足歩行をすることが重要であることを理解する。	中間考査
5					
6					
7					
8	第2編 生命現象と物質	第2章 細胞と分子 1. 生体物質と細胞 2. タンパク質の構造と性質 3. 化学反応にかかわるタンパク質 4. 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質 第3章 代謝 1. 代謝とエネルギー 2. 呼吸と発酵 3. 光合成	47	細胞を構成する代表的な物質とその特徴について理解する。生物の基本単位である細胞の構造とその機能について理解する。 細胞の生命活動を担うタンパク質の構造について理解する。タンパク質の構造と機能との密接な関係について理解する。 酵素の基本的な性質と、酵素がはたらく反応条件について理解する。酵素反応を調節するしくみについて理解する。 生体膜を介した物質輸送と、それにかかわるタンパク質のはたらきについて理解する。情報伝達にかかわる受容体タンパク質のはたらきについて理解する。 生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり、反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解する。 呼吸では有機物が酸化されるのに伴う一連の酸化還元反応によってエネルギーが取り出され、ATPが合成されることを理解する。発酵では酸素を用いずに有機物が分解され、ATPが合成されることを理解する。 光合成では、光エネルギーを用いてATPと電子の運搬体が合成され、これらを用いて二酸化炭素が還元されて有機物が生じることを理解する。	始業式  中間考査  期末考査 終業式
9					
10					
11					
12					
1	第3編 遺伝情報の発現と発生	第4章 遺伝情報の発現と発生 1. DNAの構造と複製 2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝子の発現調節 4. 発生と遺伝子発現 5. 遺伝子と扱う技術	32	DNAについて、2本のヌクレオチド鎖の方向性をふまえた詳しい構造を理解する。DNAが正確に複製される詳しい仕組みを理解する。 DNAの遺伝情報を写し取って、RNAが合成されるしくみを理解する。転写されたRNAからタンパク質が合成される仕組みを理解する。 遺伝子の発現が環境の変化などに応じて変化することを理解する。原核生物と真核生物において、それぞれの遺伝子発現が調節される仕組みを理解する。 発生の過程で遺伝子の発現調節によって細胞が分化する仕組みを理解する。細胞の分化を引き起こす遺伝子の発現調節は、細胞内の物質のはたらきや他の細胞からのはたらきかけによって起こることを理解する。 遺伝子を扱う様々な技術について、その原理を理解する。遺伝子を扱う様々な技術が私たちの生活の与える影響を理解する。	始業式   期末考査 卒業式
2					
3					

教科名	理科	科目名	地学基礎	単位数	2単位
対象学年	第2学年 総合選択	履修形態	必修	授業形態	講義
知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度	
科学知識の習得や知識の概念的な理解や、観察・実験操作の基本的な技術を身に付けているか。		習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につけているか。		知識・技能の習得や科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につける過程において、主体的に学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。	
科目の目標	自然科学の地学分野における一般的な教養を身につける。				
学習内容の概要	プレート運動の理解を通し、活動的な地球の姿を認識する(第1章)。大気の構造と地球全体の熱収支や大気・海水の循環について学ぶ(第2章)。宇宙の誕生と現在の宇宙の姿、惑星としての地球を理解する(第3章)。地球環境や生物の変遷を学ぶ(第4章)。自然環境が人間生活とかがかかわっていることを学ぶ(第5章)。				
学習方法	教科書に沿って学び、付属のノートを利用して教科書の内容を理解する。				
評価の観点・評価方法	教務規定に従い評価する				
使用教材	実教出版「地学基礎」、実教出版「地学基礎エブリィノート」、実教出版「ビジュアルプラス地学基礎ノート」				
その他	「ビジュアルプラス地学基礎ノート」は主に自主学習に用いる。定期的に宿題提出を行う。				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	第1章 地球の構成と運動	1節 地球の構造	14	地球の大きさに対するスケールを理解する。固体地球の層構造や構成物質の化学組成を学ぶ。プレートの運動について学ぶ。火山活動と地震活動が総合的に一つの仮説にまとめられることについてふれる。マグマの性質と火山の噴火形式と火山地形の関係を理解する。	始業式
5		2節 プレートの運動 3節 地震と火山			中間考査
6	第2章 大気と海洋	1節 大気の構造と運動	18	大気圏の構造とともに、太陽の放射エネルギーによる地球の熱収支について理解する。太陽の放射エネルギーや海洋が熱収支のバランスにとって重要であることを理解する。	期末考査
7		2節 大気の大循環			終業式
8		3節 海洋の構造と海水の運動 4節 日本の四季の気象と気候			始業式
9	第3章 宇宙、太陽系と地球の誕生	1節 宇宙の誕生	18	太陽の活動のようすなどについて学ぶ。また、恒星の性質を分析する方法や恒星の進化の過程や時間的なスケールを理解する。ビッグバンによる宇宙の誕生を理解し、宇宙の構造を知る。地球の特徴や、地球の誕生について学ぶ。	中間考査
10		2節 太陽の誕生			期末考査
11		3節 惑星の誕生と地球の成長			
12	第4章 古生物の変遷と地球環境の変化	1節 地層のつき方	14	地層の重なりや変形のしくみや、地球と生命の関係の理解を深める。	終業式
1		2節 化石と地質時代の区分 3節 古生物の変遷と地球環境			始業式
2	第5章 地球の環境	1節 日本の自然環境	14	日本の自然環境の特徴を知るとともに、そこで起こっている災害を理解する。	期末考査
3		2節 地球環境の科学			終業式

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2
対象学年 学科・コース	普通科第2学年 男子	履修形態	必修	授業形態	実技
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。		自己や仲間の課題を発見し、合理的計画的な解決に向けて課題に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともにそれらを他者に伝えることができる。		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的計画的な実践に取り組もうとしている。また、健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについて主体的に取り組む姿勢をつくる。	
学習内容の概要	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
評価の観点・ 評価方法	規定に準じ実技試験により評価				
使用教材					
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	体づくり運動	柔軟体操 筋力トレーニング 集団行動	6	集団行動の基本行動と身につけることができる	
5	陸上	走力 (短距離・長距離)	6	個人の運動能力をそれぞれ理解し、安全に留意し仲間と協力して取り組み、ひとりひとりの自己ベストを目指す。	
6	陸上	投擲 跳躍	8		
7	バレーボール	基本技術の習得・ゲーム アンダーハンドパス	6	安全に留意し、お互い協力しながら練習とゲームを行い、バレーボールの基本技術を身につけるとともに、バレーボールの特性を理解する ゲームでは自身の役割を理解し取り組む	
8	バレーボール	オーバーハンドパス サーブ	4		
9	バレーボール	アタック ゲーム	8		
10	バドミントン	基本語術の習得・ゲーム 乱打	8	安全に特に留意し、自己の能力に応じた技術を習得する	
11	卓球	基本語術の習得・ゲーム 乱打	8	安全に特に留意し、自己の能力に応じた技術を習得する	
12	サッカー	基本技術の習得・ゲーム リフティング、パス ドリブル、ゲーム	6	安全に留意し、お互い協力しながら練習とゲームを行い、サッカーの基本技術を身につけるとともに、サッカーの特性を理解する ゲームでは自身の役割を理解し取り組む	
1	バスケットボール	基本技術の習得・ゲーム ボールハンドリング	6	安全に留意し、お互い協力しながら練習とゲームを行い、バスケットボールの基本技術を身につけるとともに、バスケットボールの特性を理解する ゲームでは自身の役割を理解し取り組む	
2	バスケットボール	パス シュート	6		
3	バスケットボール	ディフェンス ゲーム	6		

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2
対象学年 学科・コース	普通科第2学年 女子	履修形態	必修	授業形態	実技

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。	自己や仲間の課題を発見し、合理的計画的な解決に向けて課題に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともにそれらを他者に伝えることができる。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的計画的な実践に取り組もうとしている。また、健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについて主体的に取り組む姿勢をつくる。

学習内容の概要	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
---------	---

評価の観点・ 評価方法	規定に準じ実技試験により評価
----------------	----------------

使用教材	
------	--

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	体づくり運動	柔軟体操 筋力トレーニング 集団行動	6	集団行動の基本行動と身につけることができる
5	陸上	走力 (短距離・長距離)	6	個人の運動能力をそれぞれ理解し、安全に留意し仲間と協力して取り組み、ひとりひとりの自己ベストを目指す。
6	陸上	投擲 跳躍	8	
7	バレーボール	基本技術の習得・ゲーム ボールハンドリング アンダーハンドパス オーバーハンドパス サーブ アタック ゲーム	6	安全に留意し、お互い協力しながら練習とゲームを行い、バレーボールの基本技術を身につけるとともに、バレーボールの特性を理解する ゲームでは自身の役割を理解し取り組む
8	バレーボール		4	
9	バレーボール		8	
10	バレーボール		8	
11	卓球	基本語術の習得・ゲーム 乱打	8	安全に特に留意し、自己の能力に応じた技術を習得する
12	バスケットボール	基本技術の習得・ゲーム ボールハンドリング パス シュート ディフェンス ゲーム	6	安全に留意し、お互い協力しながら練習とゲームを行い、バスケットボールの基本技術を身につけるとともに、バスケットボールの特性を理解する ゲームでは自身の役割を理解し取り組む
1	バスケットボール		6	
2	バスケットボール		6	
3	バドミントン	基本語術の習得・ゲーム 乱打	6	安全に特に留意し、自己の能力に応じた技術を習得する

教科名	保健体育	科目名	保健	単位数	1
対象学年 学科・コース	普通科第2学年	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身につけている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

学習内容の概要	わが国の健康について考え、健康を保持増進し、正しい生活行動を選び実践する事や環境を改善していく努力の重要性を理解できるようにする。
---------	---

評価の観点・ 評価方法	教務規定に準じ定期考査と課題
----------------	----------------

使用教材	新高等保健体育教科書・ノート/DVD
------	--------------------

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	思春期と健康	身体と心の変化と性機能の成熟	3	・思春期における心身の発達や性機能の成熟について理解する。 ・思春期に起こりやすい健康課題について理解する
5	性意識の変化と 性行動の選択	性意識の変化と異性の尊重 性に関する情報	3	・自分の行動の責任感と異性の理解と尊重の必要性について理解する。 ・性情報への適切な対処を理解する
6	結婚生活と健康 妊娠出産と健康	婚姻状況、夫婦関係、親子関係 と健康 受精・妊娠・出産 母子の健康	4	・夫婦関係や親子関係による健康への影響について理解する ・受精妊娠出産の過程とその健康課題について理解する ・母子保健サービスについて理解する
7	家族計画	家族計画 避妊法と人工妊娠中絶	3	・家族計画の意義について理解する ・人婚妊娠中絶の心身に与える影響について理解する
8	大気汚染と健康	大気汚染による健康影響 地球規模の大気環境問題	2	・大気汚染による健康への影響について理解する ・地球規模で起きている大気汚染の問題について理解する
9	水質汚濁・土壌汚染と健康	水質汚濁と土壌汚染による健康影響	4	水質汚濁と土壌汚染による健康影響について理解する
10	健康被害を防ぐための環境 対策	環境汚染の防止 産業廃棄物の問題と新たな環境汚染	4	・環境汚染による健康への影響を防ぐために行われる対策について理解する。 ・産業廃棄物の処理や新たな環境汚染の問題について理解する
11	保健制度とその活用 医療制度とその活用	人々の健康を守る保健行政と サービス 医療制度と医療保険 医療機関の役割	4	・保健行政の役割について理解する ・健康の保持増進に保健サービスの適切な活用が必要なことを理解する ・医療保険の仕組みについて理解する ・医療サービスの適切な活用方法について理解する
12	医薬品の制度とその活用	医薬品の種類と承認制度 医薬品の使い方	3	・承認制度や販売に関する規制が設けられていることを理解する ・使用方法に関する注意を守り正しく使う必要があることを理解する
1	応急手当の意義と救急医療 体制	応急手当の意義 救急医療体制の仕組み	3	・応急手当の意義、その手順や方法を身につける必要性を理解する ・救急医療体制の仕組みと必要性、適切な利用法について理解する
2	心肺蘇生法	心肺蘇生法の意義 心肺蘇生法の行い方	3	・心肺蘇生法の意義や方法、手順について理解する。 ・心肺蘇生法ができるようにする
3	日常的な応急手当	日常的なけがの応急手当 熱中症の予防と応急手当	3	・日常生活で起こるけがの基本的な応急手当の方法を理解し、できるようにする ・熱中症の予防および基本的な応急手当の方法を理解し、出来るようにする

教科名	芸術	科目名	書道Ⅰ	単位数	2単位
対象学年 学科・コース	2年 全クラス	履修形態	必修	授業形態	実技
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
日本及び中国などの文字と文化、書体の変遷、字形、線質の特徴を理解している。		古典の書体や書風に即して、構成、表現ができています。自分の言葉で発表ができる。		幅広い表現の学習活動に一生懸命取り組もうとしている。	
学習内容の概要	毛筆の基本的な練習の中に、コンクール硬筆などを取り入れ、幅広い表現を理解する。				
評価の観点・ 評価方法	書への関心。意欲、態度、発想や表現の技能・能力などを勘案したものであるように配慮する。 (定期考査は行わないので毎回の清書を考査とみなす。記録ファイルの整理状況)				
使用教材	光村図書 書Ⅰ				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	書へのいざない	書写から書道へ	6	姿勢、執筆法の基本を身につける。 文房四宝について学ぶ。臨書について学ぶ。	
5	楷書	九成宮醴泉銘 雁塔聖教序	8	臨書について理解する。作品の生まれた背景、 筆者と作品について考え、書風を理解する。	
6	楷書	顔氏家廟碑 牛橛造像記	8	幅広い表現を学び、伝統に根ざした技法を習得する。	
7	中国大会 暮らしの中の書①	楷書の中から挑戦 命名を書いてみよう	6	古典の特徴を生かして臨書する。興味、関心を 深めると共に書の存在に気づかせ親しむ。	
8	行書	蘭亭序	2	王羲之について学ぶ。	
9	行書	蘭亭序 風信帖	8	行書の特徴を理解し、「三筆」について知る。 表現の違いを理解し、人物を通して鑑賞する	
10	硬筆	硬筆書写検定より	8	平仮名、楷書、行書の書き方を習得する。 ハガキの書き方、部首名、書き順を学ぶ。	
11	競書大会	行書の中から挑戦	8	古典の特徴を生かして臨書する。	
12	書初め大会 暮らしの中の書②	創作作品 年賀状の書き方	6	大きな紙による真剣な取り組みで賞を狙う。 身近にある書への関心を深める。	
1	仮名 暮らしの中の書③	いろは歌より 実用書	6	平仮名の歴史、単体の基本を学ぶ。御祝、中元 など生活の中にある書への関心を深める。	
2	隷書 篆書	曹全碑 自分の印稿	6	蔵鋒の筆遣いを学び、芸術性を養う。 印など身近に書があることを再認識する。	
3	漢字仮名交じり書 まとめ	創作作品 書道歴史の学習	6	「自分の好きな言葉」を構想から完成に至る 工程を考え、振り返りや自己評価につなげる。	

教科名	外国語（英語）	科目名	英語コミュニケーションⅡ	単位数	3
対象学年 学科・コース	第2学年 特別進学コースαβ	履修形態	必修	授業形態	【講義・演習】
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
学んだ知識や得た情報を理解・整理し、的確に使用することができる。		自分の考えや意見を日常的な英語表現を用いて表現することができる。		英語を用いて積極的に相手とのコミュニケーションや課題に向かう態度を身につけることができる。	
学習内容の概要	学習指導要領に基づく「英語コミュニケーションⅡ」の内容のコミュニケーション活動とそれをさらに発展させた活動（プレゼンテーション等）を行う。				
評価の観点・ 評価方法	英語学習の5領域（聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くこと）における諸活動や定期考査、小テスト等の結果を基に、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	教科書『MY WAY English Communication II』（三省堂）、『マイウェイ総合英語』（三省堂）、『必修英単語LEAP』（数研出版）				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	Lesson 1	相づちを打つ	9	「日本の踊り」について英語でやり取り、発表、英作文をする。	
5	Lesson 2	話題を発展させる 説明する	12	「日本文化」について、やり取り、発表、英作文をする。	
6	Lesson 3	心配する 理由を述べる	12	「絶滅危惧種」について、やり取り、発表、英作文をする。	
7	Lesson 4	聞き直す 説明する	9	「後悔」のロールプレイ、その実演、「後悔」の英作文をする。	
8	Lesson 4	説明をする	3	「日本文化」をテーマに、やり取り、発表、英作文をする。	
9	Lesson 5	提案する 説明する	12	「ボランティア活動」をテーマに、やり取り、発表、英作文をする。	
10	Lesson 6	描写する 説明する	12	「部活動」のインタビュー、その実演、「学校行事」の英作文をする。 「環境問題」をテーマに、やり取り、発表、英作文をする。	
11	Lesson 7	助言する 理由を述べる	12	「スポーツ」のインタビュー、その実演、英作文をする。	
12	Lesson 8	仮定する ほめる	9	「様々な国の労働時間」のやり取り、発表、「野菜と果物の違い」の英作文をする。	
1	Lesson 9	共感する	6	「日本人のノーベル賞受賞者」のやり取り、発表、英作文をする。	
2	Lesson 10	説明する 主張する	12	「歴史的な人・物」のやり取り、発表、英作文をする。 「世界の国々」についてやり取り、発表、英作文をする。	
3	Lesson 10	共感する	9	「未来の自分・職業」についてやり取り、発表、英作文をする。	

教科名	外国語(英語)	科目名	英語コミュニケーションⅡ	単位数	3
対象学年 学科・コース	第2学年 進学コース	履修形態	必修	授業形態	【講義・演習】
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
基本的な英語で書かれた英文や対話文を読んだり聞いたりし、その話題について概要を把握し、情報や考えを論理的に整理することができる。		読んだり聞いたりした内容に関して、自分の意見を持つことができる。また、自分自身や身近な事柄について、簡単な語句・表現・文法を用いて簡潔に相手に伝えることができる。		課題を自ら見つけ、自律的に粘り強く学び続けようとしている。また、他者とのコミュニケーションを積極的に取ろうとしている。	
学習内容の概要	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。				
評価の観点 評価方法	1.【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】定期考査(80%)と小テスト(20%) 2.【主体的に学習に取り組む態度】パフォーマンステストと授業中の取り組み				
使用教材	教科書「VISTA English CommunicationⅡ」(三省堂 2024年) ワークブック「VISTA English CommunicationⅡ Workbook」(三省堂 2024年)				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	Lesson 1 World Dance Performances	各国の伝統舞踊の違いや文化との結びつきについて考察する。 V+O+to不定詞、wh-+to不定詞	9	各国の伝統舞踊の由来やパフォーマンスに込められた思いを知る。意図や、疑問に思うことを伝える表現を習得する。	
5	Lesson2 A Piece of Cake	言語の対照を通じてことわざや言語表現そのものへの理解を深める。 疑問詞節、if節	12	英語と日本語の慣用句について、意味は同じでも使われる表現は言語によって異なることを知る。 疑問詞節やif節を使って質問の仕方を工夫できる。	
6	Lesson3 Quokka	絶滅危惧種のクオッカを通じて自然環境について考える。 使役動詞/知覚動詞+原形不定詞	12	オーストラリアに生息するクオッカを通して、生き物と自然環境について考えることができる。 使役動詞/知覚動詞+原形不定詞を使って文を作ることができる。	
7	Lesson4 Designing Stamps	人物像から職業について考える。切手を通じて文化の発信について知る。 形式主語it, 形式目的語 it	9	玉木氏の職業への意識と切手デザインを通じた文化の紹介について考えることができる。 itの様々な用法を使って自分の感想や考えを伝えることができる。	
8	Lesson 5 Mont-Saint-Michel	世界遺産をとりまく歴史と環境について学び、その継承について考える。 現在完了進行形、過去完了形、過去完了進行形	3	モン・サン・ミッシェルの景観を守るための取り組みについて考えることができる。 完了進行形や、既習の現在完了形を含めた完了形の使い分けができる。	
9			12		
10	Lesson 6 Smart Agriculture	先端技術を用いた社会的課題の解決について考える。現在完了形受け身、助動詞+受け身	12	スマート農業に用いられる先端技術を通じて、未来の農業について考えることができる。 様々な受け身を使うことができる。	
11	Lesson 7 A Martial Art on Tatami	競技かるたを通じて広がる日本の文化について知る。 関係代名詞の非制限用法、関係代名詞what	12	競技かるたの魅力を知ることを通して、日本文化への理解を深めることができる。 制限用法と非制限用法の違いがわかる。関係詞whatが使える。	
12	Lesson 8 Biologging	技術を用いた研究を知ることで、自然環境について考える。 分詞構文、強調構文	9	バイオロギングの研究を通して、動物や自然環境について考えることができる。 分詞構文、強調構文を使って豊かな表現ができるようになる。	
1	Enjoy Communication! ①②③	①入国審査でのやり取り ②駅の窓口でのやり取り ③病院でのやり取り	6	各場面での簡単なやり取りができるようになる。	
2	Enjoy Readin! 1 The Open Window Enjoy Reading! 2 The Christmas Truce	1. イギリスの作家サキによる、ユーモアとウィットにあふれた物語。 2. 第1次大戦下のクリスマスに起きた「奇跡」とは。	12	1. 登場人物の会話やその意図、物語の展開に注意しながら読む。 2. クリスマス休戦を通じて、世界平和について考える。	
3	Enjoy Reading! 3 My Dream Enjoy Reading! 4 Restaurant of Many Orders	3. 宇宙飛行士野口聡一さんの子供時代の作文。夢の育て方。 4. 宮沢賢治「注文の多い料理店」を英語で読む。	9	3. 野口さんの夢への考え方を知り、自分の幼少期の夢や現在の目指す進路を考える。 4. 物語の鑑賞を通じて人間と動物の関係についても考える。	

教科名	外国語（英語）	科目名	英語コミュニケーションⅡ	単位数	3
対象学年 学科・コース	第2学年 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	【講義・演習】
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
学んだ基礎知識や得た情報を的確に使用することができる。		自分の考えや意見を日常的な英語表現を用いて表現できる。		積極的に他者とのコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けることができる。	
学習内容の概要	学習指導要領に基づく英語コミュニケーションⅡの内容。特に他者とのコミュニケーションを図ろうとする力の育成に重点を置いた、基礎力定着活動を行う。				
評価の観点・ 評価方法	英語学習5技能（聞く・読む・話す「やり取り」・話す「発表」・書く）における定期考査や小テストをもとに、【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的な学習に取り組む態度】の3観点で評価を行う。				
使用教材	教科書「VISTA English Communication Ⅱ」（三省堂2023年） / WORKBOOK（三省堂版準拠）				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	L1 World Dance Performances	世界のパフォーマンスを楽しもう！ want to do ,how to do	9	教科書の内容理解、文法事項の定着 概要を把握して、意見をまとめることができる。	
5	L2 A Piece of Cake Take a Break! 1	慣用句の日英表現比較 疑問詞やIfで始まる節	12	教科書の内容理解、文法事項の定着 概要を把握して、意見をまとめることができる。 相手と意見を交換することができる。	
6	L3 Quokka Enjoy Communication1	オーストラリアのかわいい動物、クオッカ 使役動詞/知覚動詞	12	教科書の内容理解、文法事項の定着 概要を把握して、意見をまとめることができる。 動物の行動について発表することができる。	
7	L4 Designing Atamps	切手デザイナーの仕事 形式主語It/形式目的語it	9	教科書の内容理解、文法事項の定着 概要を把握して、意見をまとめることができる。	
8	L5 Mont-Saint-Michel	世界遺産モン・サン・ミッシェルの歴史	3	教科書の内容理解、文法事項の定着 概要を把握して、意見をまとめることができる。	
9	Take a Break! 2 L6 Smart Agriculture	現在完了進行形 過去完了形 過去完了進行形	12	教科書の内容理解、文法事項の定着 概要を把握して、意見をまとめることができる。 英語の歌を聞き、学びの楽しさを知る。	
10	L7 A Martial Art on Tatami	関係代名詞の非制限用法 関係代名詞What	12	教科書の内容理解、文法事項の定着 概要を把握して、意見をまとめることができる。	
11	Enjoy Communication!2	切符はどこで買えますか？ Where can I get a ticket?	12	道案内をする場面において、基本的な語句や文を用いて、相手とやり取りすることができる。	
12	Enjoy Reading! 2 The Christmas Truce Take a Break! 3	歴史の出来事や偉人の名言	9	教科書の内容理解、文法事項の定着 概要を把握して、意見をまとめることができる。	
1	L8 Biologging	動物自身がデータを集める 科学調査 分詞構文・強調構文	6	教科書の内容理解、文法事項の定着 概要を把握して、意見をまとめることができる。	
2	Enjoy Communication!3	どうかしたの？ What's the matter?	12	病院で受診する場面において、基本的な語句や文を用いて、相手と確かな情報をやり取りすることができる。	
3	Enjoy Reading! 3 My Dream	宇宙飛行士の野口聡一さんの「私の夢」	9	教科書の内容理解、文法事項の定着 概要を把握して、意見をまとめることができる。	

教科名	外国語（英語）	科目名	論理表現Ⅰ	単位数	2
対象学年 学科・コース	第2学年 進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
学んだ基礎知識や得た情報を的確に使用することができる。	自分の考えや意見を日常的な英語表現を用いて表現できる。	他者とのコミュニケーションを図ろうする態度を身に付けることができる。

学習内容の概要	「論理・表現」の目標は、自ら考え、その考えを「英語で発信できる人」を育てること。「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の3つの領域で具体的活動を自立的に行う。	
評価の観点・ 評価方法	英語学習5技能（聞く・読む・話す「やり取り」・話す「発表」・書く）における定期考査や小テストをもとに、【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的な学習に取り組む態度】3観点で評価を行う。	
使用教材	教科書「NEW FAVORITE English Logic and Expression」, WORKBOOKⅠ（東京書籍2024年）	

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	Unit 1 Lesson 1 初めての食事	Speaking Interaction 留学生のホームステイ先での食事をモデルとした会話	6	褒めることができる 勧めることができる 断ることができる
5	Lesson 2 道に迷う	Speaking Interaction 留学生がホストシスターと道に迷ってしまった会話	8	提案することができる 依頼することができる 道順を説明することができる
6	Lesson 3 人物紹介 Lesson 4 体調が悪い	Speaking Production 先生の紹介 Speaking Interaction 熱を出しホストマザーに相談する	8	身近な人を紹介できる、注意を引くことができる 体調を伝えることができる、体調を尋ねることができる 指示・アドバイスをすることができる
7	Lesson 5 買い物 Lesson 6 行ってみたい場所	Speaking Interaction スーパーへ買い出し Writing 行ってみたい場所	6	描写することができる、相づちを打つことができる 希望を述べることができる、理由を述べることができる
8	Lesson 7 イベントに誘われる	Speaking Interaction 友達にイベントに誘われる	2	誘うことができる 誘いを受けることができる 誘いを断ることができる
9	Lesson 8 スクールカウンセラーに相談	Speaking Interaction 勉強が遅れて不安なことを相談	8	状況を説明することができる、手助けを申し出ることができる、助言・提案することができる、お礼や感謝を伝えることができる
10	Lesson 9 お気に入りの紹介 Lesson 10 待ち合わせに遅刻	Speaking Production 好きな本を紹介 Speaking Interaction 約束の時間に遅れて謝る	8	要約したり、感想や批評を述べることができる 相手に謝ったり、許したり励ましたりすることができる
11	Lesson 11 家庭でのディスカッション	Speaking Interaction ホームステイ先の家族と市バスの問題について話す	8	共感を述べることができる 残念な気持ちを述べることができる 解決策を提案することができる
12	Lesson 12 英字新聞に投稿	Writing 学校に対しての要望を英字新聞に投稿する	6	要望や主張を述べることができる 理由を述べることができる
1	Unit 2 Lesson 1 クラスでディベート①	Speaking Interaction 電子書籍と紙の書籍についてクラスで討論	4	理由を述べることができる 例を挙げることができる
2	Lesson 2 クラスでディベート②	Speaking Interaction 電子書籍と紙の書籍についてクラスで討論	8	相手の意見に反駁することができる 相手の意見を引用することができる
3	Lesson 6 物事の両面を伝える	Writing 兄弟姉妹とのルームシェアについて	6	利点と欠点を述べることができる 話題を発展させることができる 話題を変えることができる

教科名	外国語(英語)	科目名	論理・表現Ⅱ	単位数	2
対象学年 学科・コース	第2学年 特別進学コースαβ	履修形態	必修	授業形態	【講義・演習】
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
The goal relating to knowledge is to have a better understanding of the usage and application.		The main goal of critical thinking is to be able to create conversation based on a topic.		The goal of this class is to create a better attitude towards English. Ex. Speaking, listening, writing, etc.	
学習内容の概要	The process of this class is to give students a chance to improve their total ability in English. This includes, listening, speaking, writing, and live English activities.				
評価の観点・ 評価方法	The students will be scored by tests, short tests, and class participation.				
使用教材	Earthrise Logic and Expression II (数研出版) Earthrise Logic and Expression II 活用ノート(数研出版)				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	Part 1-Lesson 1	Talking about cultures.(explanatory)	6	Realizing the differences in culture and explaining them. Introducing new cultures.	
5	Part 1-Lesson 2	Recommending something in English.	8	Discussion about wonderful places to visit. Also what can be seen there.	
6	Part 1-Lesson 3	Explaining a process in English.	8	Talking about ways to do things. Giving one's own opinion.	
7	Part 1-Lesson 4	Talking about something-(news, information,media)	6	Discussion on recent events and media information. Daily happenings.	
8	Part 1-Lesson 5	Entertainment-Invitations and explanations.	2	Talking about the entertainment industry. Commenting on, music, movies, and others.	
9	Part 1-Lesson 6	Discussing shopping and fashion. (preference)	8	Practical discussion on where to buy clothing and ethical fashion differences.	
10	Part1-Lesson 7	Opinions on books. Analyzing written material.	8	Information on different kinds of books and e-books. Feelings about books.	
11	Part 1- lesson 8	Discussing technology-(Good and bad)	8	Giving one's own opinion on how different technologies have made life better or worse.	
12	Part 2-Lesson 1	Invitations. Asking permission.	6	This lesson is based on how to properly ask permission. (Impolite and polite)	
1	Part 2-Lesson 2	Supporting others. (Complimenting)	4	This lesson basically tells how to cheer on someone. Also how to compliment them.	
2	Part 2-Lesson 3	Recommending different kinds of food.(Explaining)	8	This lesson talks about introducing foods. (Food preference)	
3	Part 2-Lesson 4	Health discussion and medical information.	6	This lesson talks about the dos and don'ts to stay healthy and fit.	

教科名	商業科	科目名	課題研究	単位数	3
対象学年 学科・コース	2年生総合選択コース ビジネス関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義・演習形式
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
社会人と学生の違いや、高校時代に習得しておくべき、社会人として必要なことを知る。また進学に対応した経済や経営に関する基礎知識を習得する。		身につけるべきマナーや行動を考え、実行する能力を身につける。また、経済や経営に関する知識を用いて歴史上の事項を経済・経営的に分析、判断する。		実社会に出てから必要となる技能であることを認識して、積極的に習得する姿勢を育む。	
学習内容の概要	社会人と学生の違いを知り、高校時代に習得しておくべき、社会人として必要なことを知る。また、ビジネス系進学に対応することとして経済学や経営学のスタートとなる基礎部分を学ぶ。				
評価の観点・ 評価方法	定期考査において知識・技能を問う問題と、思考・判断・表現力を問う問題を区別して作成し、その得点率によって評価する。また普段の授業態度や小テスト、提出物によって主体的に学習に取り組む姿勢も併せて評価する。				
使用教材	自主教材				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	学校生活と社会人生活の違い	学生とは 社会人とは (外部講師講演予定あり)	9	生徒・学生と社会人の責任の違いを理解する	
5	マナーを知る 進路学習：業種と職種	高校在学中も卒業後の進路違いにも関わらず実践すべきマナー 業種と職種の違い	9	学生、社会人に関わらず知っておき、実践すべきマナーがあることを理解する 業種と職種の違いを知ったうえで将来の目標を設定する必要性を理解する	
6	進学にも対応するビジネス知識	経済学で学ぶこと	12	経済学とは何を学ぶものであるのか、その基礎を知る	
7	進学にも対応するビジネス知識	経済学・経営学で学ぶこと	9	経済学・経営学とは何を学ぶものであるのか、その基礎を知る	
8	進学にも対応するビジネス知識	経済学・経営学で学ぶこと	6	経済学・経営学とは何を学ぶものであるのか、その基礎を知る	
9	進学にも対応するビジネス知識	経済学・経営学の視点で日本の歴史上の出来事を見る	12	日本の歴史上の出来事を、貨幣価値の視点から観ることで多角的な視点を身につける	
10	進路学習	業種・職種を知る (外部講師講演予定あり)	12	業種と職種の違いを理解し、どのような業種や職種があるのかを復習し、自分の進路について考える。	
11	進路学習	より具体的に業種・職種を知る (外部講師講演予定あり)	12	自分の興味のある業種や職種、必要な資格等について調べ、まとめる。	
12	進路学習	より具体的に業種・職種を知る	6	現時点での自分の目標とする進路を決め、それに必要な要件について調べる。	
1	進学にも対応するビジネス知識	経済学・経営学で学ぶこと	9	経済学・経営学とは何を学ぶものであるのか、その基礎を知る	
2	進学にも対応するビジネス知識	経済学・経営学で学ぶこと	12	経済学・経営学とは何を学ぶものであるのか、その基礎を知る	
3	マナーを知る	冠婚葬祭のマナー	9	冠婚葬祭のマナーを知る	

教科名	商業科	科目名	簿記	単位数	4
対象学年 学科・コース	2年生総合選択コース ビジネス関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義形式

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
個人企業において発生する取引の記録・計算・整理を行うための知識と技能を身につける。	取引の記録をもとに、決算書類の作成まで正確に行い、財政状態や経営成績の判断を行うための思考、判断力を身につける。	実社会に出てから必要となる技能であることを認識して、積極的に習得する姿勢を育む。

学習内容の概要	個人企業において発生する取引の記録・計算・整理を行うための知識・技能を身につけるとともに、企業の財政状態や経営成績を判断するための基礎的な能力を習得する。
---------	---

評価の観点・ 評価方法	定期考査において知識・技能を問う問題と、思考・判断・表現力を問う問題を区別して作成し、その得点率によって評価する。また普段の授業態度や小テストによって主体的に学習に取り組む姿勢も併せて評価する。
----------------	---

使用教材	「新簿記」(実教出版)、標準検定簿記問題集(とうほう)など
------	-------------------------------

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	簿記とは 各種取引の記帳	簿記の意義と役割 現金・現金過不足の記帳	12	簿記の役割を理解する 現金・現金過不足を用いた取引の処理を習得する 各種の預金を用いた取引の処理を習得する
5	各種取引の記帳	小口現金の記帳 商品売買の記帳 掛け取引の記帳	12	小口現金を用いた取引の処理を習得する 仕入・売上に関する取引の処理を習得する 掛け取引、補助元帳を用いた処理を習得する
6	各種取引の記帳	その他の債権・債務の記帳	16	前払金・前受金を用いた処理を習得する 未収金・未払金を用いた処理を習得する 貸付金・借入金を用いた処理を習得する
7	各種取引の記帳	その他の債権・債務の記帳	12	手形貸付金・手形借入金を用いた処理を習得する 立替金・預り金を用いた処理を習得する 仮払金・仮受金を用いた処理を習得する
8	各種取引の記帳	固定資産の記帳	8	各種の固定資産の勘定科目を用いた処理を習得する
9	各種取引の記帳	販売費と一般管理費の記帳 個人企業の純資産の記帳	16	販売費と一般管理費に属する各種費用の勘定科目を用いた処理を習得する 個人企業における資本金に関する処理を習得する
10	各種取引の記帳	商品に関する決算整理 貸し倒れ・減価償却 精算表	16	決算における商品、貸し倒れ、減価償却の処理について習得する 精算表の作成方法を身につける
11	各種取引の記帳	帳簿決算 財務諸表の作成 伝票の作成	16	帳簿決算、貸借対照表と損益計算表の作成方法を身につける 伝票の起票方法を習得する
12	総復習	検定試験受験に向けて	8	検定試験全商3級受験に向けて模擬問題を解く
1	総復習	検定試験受験に向けて	12	検定試験全商3級受験に向けて模擬問題を解く
2	進んだ学習	個人企業の税金の記帳	16	進んだ学習として全商2級の範囲である個人企業の税金の処理を習得する
3	進んだ学習	減価償却(間接法)	12	進んだ学習として全商2級の範囲である減価償却(間接法)の処理を習得する

教科名	商業	科目名	総合デザイン	単位数	4
対象学年 学科・コース	2学年普通科 総合選択アート群	履修形態	必修	授業形態	講義・実習
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
芸術全般の基礎知識・技能の習得		実習を通し、思考力・判断力・表現力の習得		知識を身に着け、考え、実行	
学習内容の概要	衣食住に必要なデザインを学び、デザインの基礎・表現・実際を学習・習得します。				
評価の観点・ 評価方法	1. 【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 定期考査と小テスト 2. 【主体的に学習に取り組む態度】 パフォーマンステストと授業中の取り組み				
使用教材	日本色研「カラー&ライフ」ケント紙 画用紙 ポスターカラー 粘土 筆				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	造形の基礎	デザインとは、何かを学ぶ	14	デザインがもたらすものを理解させる	
5	造形の要素	形態・色・材質感・空間・時間	12	造形の要素を理解させる	
6	造形の構成	構成の基本	16	数理的秩序・調和を理解させる	
7	観察から表現へ	観察 表現の課程と技法	12	観察から表現する	
8	観察から表現へ	観察 表現の課程と技法	4	観察から表現する	
9	メッセージと表現	記号による意味	16	表現アイデアの手法	
10	身近な生活のデザイン	自分をデザインする	16	自分をデザインする	
11	身近な生活のデザイン	学校をデザインする	16	学校をデザインする	
12	身近な生活のデザイン	学校を情報化する	10	学校を情報化する	
1	知らせるデザイン	広告ポスターを作る	12	作品完成・発表	
2	知らせるデザイン	手紙をデザインする	16	手紙をデザインする	
3	応用デザイン	学級新聞をデザイン	12	作品完成・発表	

教科名	商業	科目名	ビジネスマナーⅠ	単位数	3
対象学年 学科・コース	第2学年総合選択 (生活・情報)	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
社会人として必要なマナーと知識を習得する		身に付けたマナーや知識を実践できる力を養う		ビジネスの諸活動が快適かつ意欲的に過ごせるよう学習する	
学習内容の概要	秘書検定の内容を通じてビジネスの場で必要なマナーを学習する。				
評価の観点・ 評価方法	規程に従い、定期考査および小テスト等を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	自主教材テキスト「ビジネスマナー」				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	身だしなみ オフィス環境	望まれる身だしなみ 室内清掃、環境整備	6	服装全般を中心に職場において望まれる身だしなみについて理解する 応接室、会議室など清掃、整備のポイントを理解する	
5	オフィス用品 文書	ファイリングと資料管理等 受発信文書等	10	資料や名刺の管理に必要な道具と整理の仕方、資料管理の重要性について理解する 基本的な文書構成、文書の取り扱いについて理解する	
6	郵便物 対話・言葉遣い	各種郵便物 尊敬語、謙譲語	12	各種郵便物の特徴、特殊取扱郵便物の種類と特徴について理解する 敬語の種類と使い分けについて理解する	
7	電話対応 慶弔・贈答	電話のかけ方、受け方 慶事・弔事 各種贈答	9	電話対応の注意点を理解する 各種慶弔・贈答に必要な知識や注意事項を理解する	
8	来客対応	席次 上司不在の場合 茶菓接待	6	来客の対応に必要な注意点について理解する	
9	会議とその準備 出張とその準備	事前準備と後始末 出張における秘書の仕事	12	会議における秘書の役割について理解する 出張時の秘書の仕事について理解する	
10	検定対策	過去問題集を活用し 学習する	12	過去問題集を用いて検定試験に備える	
11			12		
12			10		
1			9		
2			10		
3	進んだ学習	秘書検定2級の分野 に取り組む	9	これまで学習した3級の内容を踏まえ、更に上級の内容を学習する	

教科名	商業	科目名	文書デザイン	単位数	2
対象学年 学科・コース	2年 情報関連選択	履修形態	必修	授業形態	実習
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
文書作成ソフトの操作技術と文書に関する知識及び文書デザイン能力を身に付ける。		文書をコミュニケーションツールとして捉え、適切なデザインを思考し、分かりやすく表現する力を身に付ける。		情報を効果的に統合し、発信・管理する態度を身に付ける。	
学習内容の概要	文書作成ソフトを用いて、基本的な操作から応用的な編集機能まで学習する。 文書をコミュニケーションツールとして捉え、適切なデザインを学習する。 ビジネス文書の目的と管理について学習する。				
評価の観点・ 評価方法	操作技術及び知識の定着、適したデザインの表現力を、定期考査と小テストで評価する。 学習した技術を活かして適切に表現しようとする態度を、課題の取り組み方や提出状況で評価する。				
使用教材	Microsoft Word、自主教材				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	キーボードの操作	キーボードと指の分担 変換 ページ設定・保存・印刷	6	コンピュータの起動から終了、簡単な文字入力、基本的な操作を行えるようになる。	
5	タッチタイピング 作表	タッチタイピング 表の作成	8	タッチタイピングの技術を身に付ける。 簡単な表の作成手順を覚える。	
6	ビジネス文書	標準的なビジネス文書 ビジネス文書の構成要素 段落書式	8	標準的なビジネス文書の作成を通して、ビジネス文書の構成要素を理解する。 段落書式の編集操作を身に付ける。	
7	演習	ビジネス文書の作成	4	表を含むビジネス文書の作成を反復練習し、学習した技術を定着させる。	
8	様々な表の作成	罫線の編集 表の編集	2	作表における罫線やサイズの編集機能を覚える。	
9	データの並べ替え 計算機能	データ活用	8	与えられたデータを活用して、ソートや計算の操作を行えるようになる。	
10	グラフィックス	クリップアート テキストボックス 図形描画	8	画像の添付、テキストボックスの挿入、図形の挿入についての操作を行えるようになる。	
11	グラフィックス	ワードアート SmartArtグラフィック	8	ワードアート、SmartArtについての操作を行えるようになる。	
12	演習	グラフィックス活用	6	グラフィックスを活用し、視覚的に分かりやすい文書について理解する。	
1	グラフ	グラフの作成	6	与えられたデータを活用して、グラフ作成を行えるようになる。	
2	スタイル テーマ	組み込みスタイル スタイルの登録	8	効率的に文書を作成する技術を身に付ける。	
3	演習	様々な文書の作成	6	多数の編集機能を駆使して、複雑な文書を作成できるようになる。	

教科名	商業科	科目名	電卓演習	単位数	3単位
対象学年 学科・コース	第2学年 総合選択コース ビジネス関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
電卓の機能を理解し、様々な計算方法を身に付け、計算の速さ・正確さなどの操作能力を身に付ける。		ビジネスの諸活動に必要な計算に興味を持ち、意味を理解し、効率よく計算するにはどうしたらいいかを考える力を育てる。		学習内容に関心を持って進んで学び、興味のある所や理解のできにくいところにも積極的に取り組む。	
学習内容の概要	教師の操作方法についての説明の後、与えられた問題を解いていく。				
評価の観点・ 評価方法	授業時のプリント、テキストの進行状況、定期考査の成績。 商業科の観点別評価に従い、主体的に学習に取り組む態度を見て評価する。単元ごとの観点別テスト				
使用教材	本校指定の電卓、教員作成プリント 実教出版「ビジネス計算実務検定模擬試験問題集1級」				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	電卓の基礎知識と機能説明	電卓の各部位の説明	10	普段使用しないが覚えると便利な機能について理解する。	
5	検定学習	全商協会主催ビジネス計算実務検定 普通計算 ×・÷・見	10	全国商業高等学校協会主催電卓計算実務検定2級・1級で出題される乗算・除算・見取算問題の解き方について理解する。	
6	検定学習	全商協会主催ビジネス計算実務検定 普通計算・ビジネス計算	10	全国商業高等学校協会主催電卓計算実務検定1級で出題される乗算・除算・見取算問題を時間を計り練習する。ビジネス計算問題について学ぶ。	
7	検定学習	全商協会主催ビジネス計算実務検定 ビジネス計算	8	全国商業高等学校協会主催電卓計算実務検定1級で出題されるビジネス計算問題について繰り返し解く。	
8	検定学習	全商協会主催ビジネス計算実務検定 ビジネス計算	6	全国商業高等学校協会主催電卓計算実務検定1級で出題されるビジネス計算問題について繰り返し解く。	
9	検定学習	全商協会主催ビジネス計算実務検定 ビジネス計算	13	全国商業高等学校協会主催電卓計算実務検定1級で出題されるビジネス計算問題について繰り返し時間を計って練習する。	
10	検定学習	全商協会主催ビジネス計算実務検定 普通計算・ビジネス計算	11	普通計算・ビジネス計算を時間を計り繰り返し練習する。	
11	検定学習	全商協会主催ビジネス計算実務検定 普通計算・ビジネス計算	11	検定試験が行われる月でもあるので、繰り返し時間を計り練習する。	
12	検定学習	全国経理教育協会主催電卓 計算能力検定 計算実務能力検定等	9	全商検定で培った力を基に、複合算にも挑戦し、正確に早く問題に取り組む。他検定のビジネス問題にも取り組む。	
1	検定学習	全国経理教育協会主催電卓 計算能力検定 計算実務能力検定等	9	全商検定で培った力を基に、様々な検定に取り組む。他検定のビジネス問題にも取り組む。	
2	検定学習	全国経理教育協会主催電卓 計算能力検定 計算実務能力検定等	11	全商検定で培った力を基に、様々な検定に取り組む。他検定のビジネス問題にも取り組む。	
3	検定学習	全国経理教育協会主催電卓 計算能力検定 計算実務能力検定等	9	全商検定で培った力を基に、様々な検定に取り組む。	

教科名	家庭	科目名	保育基礎	単位数	2単位
対象学年 学科・コース	2年 普通科総合選択コース 生活関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義・実習

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。	子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	子どもの健やかな発達を目指して学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学習内容の概要	1, 子どもの保育 2, 子どもの発達 3, 子どもの生活 4, 子どもの福祉 5, 子どもの文化
---------	---

評価の観点・ 評価方法	・評価の観点は【知識・技能】子どもの発達や生活の特徴、保育、福祉や文化などについての知識を体系的・系統的に身につけている。子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身につけている。【思考・判断・表現】子どもを取り巻く課題を見つけ、保育を担う者の視点から合理的かつ創造的に解決するために、思考を深め適切な判断や工夫、表現をする力を身につけている。【主体的に学習に取り組む態度】子どもの発達や保育にかかわる職業について関心を持ち、地域の保育や子育て支援を通じて子どもの健やかな発達に寄与しようとする意欲的な態度を身につけている。・評価方法は規定に従い、観点別評価で行う。
----------------	--

使用教材	保育基礎 ようこそ、ともに育ち合う保育の世界へ（教育図書）、課題プリント
------	--------------------------------------

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	子どもの保育	子どもにかかわる職業を知ろう！ 1, 保育の意義 2, 保育の環境	6	・子どもにかかわる職業にどのようなものがあるか、また、その意義を知る。 ・保育には、子どもの生涯の人格形成の基礎を培う重要な意義があることを理解する。 ・家庭及び幼稚園、保育所や認定こども園について、それぞれの養育・保育環境の特徴や役割を理解する。
5	子どもの保育	2, 保育の環境 3, 保育方法	7	・現代の子どもや子育て家庭を取り巻く環境の問題、多様な保育のニーズに関する課題を知り、子どもの健やかな発達のための適切な保育環境について考える。 ・子どもの成長には子どもを受け止め理解してくれる大人の存在が不可欠であることを知る。 ・発達過程の特徴と段階に応じた保育の方法を理解する。
6	子どもの発達	1, 子どもの発達の特性 2, 乳幼児の発育と発達	7	・発達には順序性・連続性・方向性・相互性という一定の共通性がある一方で個人差が大きいことを理解する。 ・子どもが主体的に環境にはたらきかけ、発達していくために保育者などが応答的にかかわることが大切であると理解する。 ・胎児の発育について理解し、生命誕生にかかわる母体環境の重要性を知る。
7	子どもの発達	2, 乳幼児の発育と発達	7	・乳幼児期の発育について、各部位別の目安や評価法を知る。 ・乳幼児期の生理的特徴について理解する。 ・乳児期、幼児期における感覚、運動機能、情緒、認知機能、言語、社会性の発達の特性について理解する。 ・子どもと大人ではものどらえ方に違いがあることを理解する。
8	子どもの発達	2, 乳幼児の発育と発達	3	・愛着関係の形成過程を学び、その重要性を理解する。 ・安全基地としての親の重要性について理解する。 ・また家族、きょうだい、友だちなどの対人関係と社会性の発達について考える。 ・子どもの発達の個人差に配慮しながら、心身の発達を促すために保育者としてどのように接するとよいか考える。
9	子どもの生活	1, 子どもの健康と生活 2, 子どもの食事	8	・子どもを安全に養護するためのポイントや、注意点について知る。 ・基本的な生活習慣と社会的な生活習慣の違いを理解し、その具体的な内容について知る。 ・子どもの栄養と食生活の特徴を知り、必要なエネルギーと栄養素について理解する。
10	子どもの生活	2, 子どもの食事	8	・近年の幼児に関する食事習慣や健康面の課題を知り、家庭や保育施設でどのようなことが求められているかを考察する。 ・調製粉乳の作り方、与え方を実習を通じて理解する。 ・市販のベビーフードを試食して自分たちの食事と味や食感の違いを理解する。
11	子どもの生活	3, 子どもの衣服と寝具 4, 子どもの健康と安全	8	・乳幼児に適した被服の素材や型を知り、適切な衣服計画ができるようになる。 また、安全な衣生活について考えることができる。 ・人形を使い、衣服の着替え、おむつ替えを習得する。 子どもの健康を守るための保育者の役割を理解し、健康状態の観察方法を知る。
12	子どもの生活	4, 子どもの健康と安全	6	・子ども特有の病気について知り、予防接種の大切さを理解する。 また、病気の際に落ち着いて対処するための知識を得る。 ・住まいに潜む危険について理解し、家庭や保育施設など身近な場所の危険についても考えることができる。
1	子どもの福祉	1, 保育にみる児童観 2, 児童福祉の理念と法規・制度	6	・日本の児童観の変遷と、社会環境や法制度のしくみについて理解する。 ・児童福祉法や児童福祉関連施設の概要とその役割について理解する。 ・障がいの有無や貧困、虐待、国籍の違いなど、多様な事情、背景をもつ家庭や子どもたちが十分な保育サービスを受けるために必要な施策を考える。
2	子どもの文化	1, 子どもの文化の意義 2, 子どもの文化を支える場 3, 子どもと遊び	6	・子どもの文化やそれを支える場が、子どもの健康で豊かな生活の実現のために果たす役割や意義を理解する。 子どもの健やかな発達における遊びの重要性や意義をおもちゃ作りを通じて理解する。
3	子どもの文化	3, 子どもと遊び 4, 子どもの表現活動	6	・子どもの遊びの内容や時間、場所、仲間などが、近年の社会の変化の影響を受けて変容していることを知り、どのような課題があるかを考える。 ・表現活動で子どもの意欲を引き出し、心身を育むための、保育者としての適切なかかわり方を理解する。

教科名	家庭科	科目名	服飾手芸	単位数	3
対象学年 学科・コース	2年総合選択コース 生活関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義・実習
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
手芸の種類、特徴、各種手芸の技法などに関する知識を身につける。手芸の基礎的な技術を身につける。		各種手芸の技法を活用して、目的に応じた作品を製作する。創造力を働かせて手芸作品を製作する。		向上を目指し意欲的に取り組むと共に、服飾に活用する実践的な態度を身につける。	
学習内容の概要	さまざまな技法を用いた手芸作品の製作				
評価の観点・ 評価方法	作品の評価、実習への参加、態度などを各学期ごとにまとめる。また、授業中の学習態度、出席状況について考慮し、総合的に評価する。				
使用教材	各種手芸材料				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	オリエンテーション 手芸の種類と変遷 基礎縫い	手芸の用具・作業の注意点  運針の基礎	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>手芸の種類や歴史等について理解する</li> <li>用具の種類と使い方を理解する</li> <li>特に安全に留意することを確認する</li> <li>玉止め、運針、玉結びなど運針の基礎を習得する</li> </ul>	
5	ミニクッション	ぬいぐるみの基礎	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>待ち針をうつこと、なみ縫いをするを繰り返し、手縫いの基礎を習得する。</li> </ul>	
6			11		
7	ティッシュボックスカバー	ミシン縫いの基礎	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>裁断・しるしつけの方法を習得する。</li> <li>待ち針、しつけ、ミシン縫いの一連の基礎を確認する</li> </ul>	
8	さしこの鍋つかみ	さしこをする ミシンで鍋つかみに仕上げる	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>玉止め、運針、玉結びなど運針の基礎を習得する。</li> <li>待ち針、しつけ、ミシン縫いの一連の基礎を確認する</li> </ul>	
9			12		
10	エコバッグ	ミシン縫い	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミシンを使いこなす</li> </ul>	
11	クロスステッチ	刺繍の基礎	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>クロスステッチのさし方を習得する</li> <li>ピンクッションに仕立てる。</li> </ul>	
12	ミニトートバッグ	裏付きバッグの基礎	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>裁断・しるしつけの方法を習得する。</li> <li>手順を理解し、裏付きのバッグを仕立てる。</li> </ul>	
1	エプロン	裁断・しるしつけ ひもをつくる ポケットをつける わきを縫う 裾を縫う 前見返しを縫う 仕上げる	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでに習得した製作に関する知識や技能を生かし、ミシンで製作することで、基礎的な縫製技能等の定着を図る。</li> </ul>	
2			8		
3			9		

教科名	家庭	科目名	フードデザイン	単位数	2単位
対象学年 学科・コース	2年 総合選択コース 生活関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義・実習
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。		食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。		食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。	
学習内容の概要	調理の基本・食生活と健康・栄養素のはたらきと食事計画・フードデザイン実習				
評価の観点・ 評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の観点</li> <li>【知識・技能】栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなど、フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を習得している。</li> <li>【思考・判断・表現】多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって、課題を解決できる。</li> <li>【主体的に学習に取り組む態度】人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために、進んで学ぶ姿勢を持ちつつ、食材を適切に選択し作るところから食べるところまでを総合的に捉えて、主体的に計画・実践することができる。また、習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用することにより、食育の推進に他と協働して取り組むことができる。</li> <li>・評価方法 規定に従い、観点別評価で行う</li> </ul>				
使用教材	フードデザイン(実教出版)、課題プリント				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	4章 調理の基本	第1節 調理とおいしさ 第2節 調理操作	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理の目的とおいしさにかかわる要因について理解する。</li> <li>・主な加熱操作と非加熱操作について、食品の調理性や栄養的特徴などにかかわらせて理解する。</li> </ul>	
5	4章 調理の基本 6章 フードデザイン実習 (実習施設の使用状況により適宜実施)	第3節 調味操作	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調味に関する基本的な知識を習得する。</li> <li>・基礎的な日常食の調理について、計画し、作ることができる。</li> </ul>	
6	1章 食生活と健康 6章 フードデザイン実習	第1節 食事の意義と役割	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事は、栄養を供給し、生命の維持や健康の保持増進を図ると同時に、精神的な役割や文化的な役割を果たしていることを理解する。</li> <li>・基礎的な日常食の調理について、計画し、作ることができる。</li> </ul>	
7	1章 食生活と健康	第2節 食をとりまく現状	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の食に関する問題点、健康維持のための食事の大切さを理解する。・各国の食料自給率を通して、日本の食料生産の問題点や市場にあふれる食材の背景にあるもの、食料の価値を考える。・地球環境の保全、生物連鎖と食生活との関わりについて理解し、日常の生活行為を改善する。</li> </ul>	
8	2章 栄養素のはたらきと食事計画	第1節 栄養素のはたらき	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間が食品の摂取により栄養をどのように取り入れていくか、食物が体内でどのように消化・吸収され、活用されていくか理解する。</li> </ul>	
9	2章 栄養素のはたらきと食事計画 6章 フードデザイン実習	第1節 栄養素のはたらき	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・炭水化物の特徴と体内ではたらき、代謝について理解する。</li> <li>・基礎的な日常食の調理について、計画し、作ることができる。</li> </ul>	
10	2章 栄養素のはたらきと食事計画 6章 フードデザイン実習	第1節 栄養素のはたらき	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脂質の特徴と体内ではたらき、代謝について理解する。</li> <li>・基礎的な日常食の調理について、計画し、作ることができる。</li> </ul>	
11	2章 栄養素のはたらきと食事計画 6章 フードデザイン実習	第1節 栄養素のはたらき	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たんぱく質の特徴と体内ではたらき、代謝について理解する。</li> <li>・食品ごとのアミノ酸スコアを計算することができる。</li> <li>・基礎的な日常食の調理について、計画し、作ることができる。</li> </ul>	
12	2章 栄養素のはたらきと食事計画 6章 フードデザイン実習	第1節 栄養素のはたらき	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミネラルの種類と特徴、体内ではたらきについて理解する。</li> <li>・基礎的な行事食の調理について、計画し、作ることができる。</li> </ul>	
1	2章 栄養素のはたらきと食事計画 6章 フードデザイン実習	第1節 栄養素のはたらき	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビタミンの種類と特徴、体内ではたらきについて理解する。</li> <li>・基礎的な日常食の調理について、計画し、作ることができる。</li> </ul>	
2	2章 栄養素のはたらきと食事計画 6章 フードデザイン実習	第1節 栄養素のはたらき	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水とその他の物質の役割やはたらきについて理解する。</li> <li>・基礎的な日常食の調理について、計画し、作ることができる。</li> </ul>	
3	2章 栄養素のはたらきと食事計画 6章 フードデザイン実習 実技テスト	第1節 栄養素のはたらき	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー摂取量と必要なエネルギー量の算出方法を理解する。</li> <li>・授業や日常生活を通して身につけた基礎的な調理技術を確認する。</li> </ul>	

教科名	情報	科目名	情報テクノロジー	単位数	3
対象学年 学科・コース	普通科第2学年 総合選択コース(情報)	履修形態	必修	授業形態	講義・実習

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
情報の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における情報及び情報産業の意義や役割を理解している。	情報の各分野に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、情報産業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	情報の各分野に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
学習内容の概要	内容を大別すると次の3つの分野からなる。1) 情報社会の進展と情報テクノロジーとの関わり、2) ハードウェアの仕組みと活用、3) ソフトウェアの仕組みと活用、について実習を中心に習得する。	
評価の観点・ 評価方法	定期考査・小テスト・模擬問題を通じ、規定に基づき観点別に評価を行う。	
使用教材	実教出版「情報テクノロジー」・東京法令出版「パソポ-ト3級Excel」・学習プリント等	

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	ハードウェア	オリエンテーション コンピュータの種類と構成	6	さまざまな分野で利用されているコンピュータの種類と特性を理解し、ハードウェアの機能と構成について学習する。
5		コンピュータの内部処理	9	・2進数・16進数、基数変換、データの単位、補数表現、シフト演算、浮動小数点、誤差、文字コード等のデータ表現について学習する。 ・AND・OR・NOT・XORやフリップフロップなどの論理回路、半加算器や全加算器の機能について学習する。
6		周辺装置	12	・ハードディスクの構造や容量、アクセス時間について理解するとともに、ハードディスク以外の記憶装置についても学習する。 ・各種の入出力インタフェース、組込システムや電子タグ等について学習する。
7		標準化団体	9	規格を標準化することの必要性や、各標準化団体の役割について学習する。
8	ソフトウェア	オペレーティングシステムの仕組み	6	・システムソフトウェアとアプリケーションソフトウェアとに分けてソフトウェアの種類と役割を学習する。 ・オペレーティングシステムの役割と特性について学習する。
9		アプリケーションソフトウェア	12	・各種アプリケーションソフトウェアの種類と機能について学習する。 ・オープンソフトウェアの特徴や種類について学習する。
10		情報コンテンツに関する技術	12	・情報コンテンツの概念や保護などについて学習する。 ・静止画像、動画、音声など情報コンテンツの作成に用いられるメディアの種類や特徴、ファイル形式等について学習する。
11	情報システム	情報システム	12	・情報システムの処理形態や利用形態について学習する。 ・コンピュータのシステム構成や性能、障害対策について学習する。 ・社会で情報システムがどのように使用されているか学習する。
12		ネットワーク	24	・ネットワークの基礎的な形態やケーブルの種類、LANのアクセス制御、インターネットの接続知識について学習する。 ・プロトコル、OSI参照モデル等ネットワークの接続や接続機器について学習する。
1				・インターネットの概念、歴史、TCP/IPサービスの種類について学習する。 ・ルーティングの役割や機能について学習する。
2		データベース	15	・データベースの基本的な概念や機能について学習する。 ・リレーショナルデータベースの基本事項、E-R図とデータ分析、さらにデータの正規化について学習する。
3	・データベースの制御機能であるトランザクション処理について学習する。 ・検索エンジンについて学習する。			

教科名	音楽（専門）	科目名	音楽理論	単位数	2
対象学年 学科・コース	普通科 第2学年 総合選択コース（情報）	履修形態	必修	授業形態	講義・実習
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
音楽に関する基礎的な理論について理解するとともに、理解したことを楽譜によって表す技能を身に付けるようにする。		音楽理論を表現や鑑賞の学習に活用する思考力、判断力、表現力等を育成する。		音楽理論を表現や鑑賞に生かそうとする態度を養う。	
学習内容の概要	上記学習の到達目標に示す資質・能力を身に付けることができるよう、（1）楽典、楽曲の形式など（2）和声法（3）対位法などの項目について指導する。				
評価の観点・ 評価方法	定期考査・小テストを通じ、規定に基づき観点別に評価を行う。				
使用教材	副教材、授業プリント等				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	歌唱	<ul style="list-style-type: none"> <li>呼吸や口の形など発声の基本を学習する。</li> <li>歌うことの楽しさを感じる。</li> <li>楽譜を見て歌う力（視唱・読譜）を養う。</li> </ul>	12	曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解を深め、歌唱に対する意識をもち、発声の基本や視唱（読譜）の力を育みながら、楽曲に合った歌唱法の工夫をする。	
5					
6	ミュージカル	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの作品を鑑賞し、物語の内容、登場人物の心情を理解する。</li> <li>リズムと旋律の関わりを理解し、互いに歌い、曲想や歌詞の内容を理解し、楽曲に合わせた表現をして歌う。</li> </ul>	14	舞台作品としてのミュージカル（映画）の物語の内容、それぞれのナンバーを歌う登場人物の心情、曲想と歌詞の関わりを理解して、表現の工夫をして歌う。	
7					
8	器楽・創作	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽典の初歩として音階と和音を鍵盤楽器を併用して学習する。</li> <li>鍵盤楽器に親しみをもち弾くことへの興味をもたせる。</li> <li>鍵盤楽器に慣れたのち、コード表から簡単な和音を弾けるようにする。</li> </ul>	28	鍵盤楽器（ピアノ、キーボード）に興味をもち、音階や和音の学習から、和音進行（コード進行）から旋律をつくる活動、音階から旋律をつくる活動に進み、自ら鍵盤楽器で弾いて表現の工夫をする。	
9					
10					
11					
12	日本の歌	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語（歌詞）の発音（鼻濁音、子音など）に注意して歌う。</li> <li>歌詞の内容、曲想を理解し、楽曲に合わせた表現をして歌う。</li> </ul>	12	日本語の美しさを感じ取り、発音に注意をしながら、歌詞の内容や曲想を理解し、楽曲にふさわしい表現の工夫をして歌う。	
1					
2	歌唱・創作	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽譜から正確なリズムを読み取り、声を発して表現をする。</li> <li>それぞれの役割を果たし、互いに聴き合いながら、リズムの関係や声の響きの調和を作り出す。</li> <li>楽曲の曲想について、互いに共通の意識をもって、音楽を作り出すようにする。</li> </ul>	12	それぞれの奏者の演奏する役割をもって、互いにリズムや声の響きを感じ取りながら、ヴォイスアンサンブルを楽しみ、表現の工夫をする。	
3					

教科名	美術	科目名	素描	単位数	3
対象学年 学科・コース	2学年普通科 総合選択アート群	履修形態	必修	授業形態	講義・実習
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
芸術全般の基礎知識・技能の習得		実習を通し、思考力・判断力・表現力の習得		知識を身に付け、考え、実行	
学習内容の概要	デッサンの基礎・表現・実際を学習・習得します。 デッサンに必要な技法を学びます。基礎的技術をもとに実習・制作を行います。				
評価の観点・ 評価方法	1. 【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 定期考査と小テスト 2. 【主体的に学習に取り組む態度】 パフォーマンステストと授業中の取り組み				
使用教材	デッサンの基本 (ナツメ社Artマスター)				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	素描の基礎	デッサンとは、何かを学ぶ	8	デッサンがもたらすものを理解させる	
5	素描の要素	形態・色・材質感・空間・時間	12	造形の要素を理解させる	
6	素描の構成	構成の基本	12	数理的秩序・調和を理解させる	
7	観察から表現	観察 表現の過程と技法	8	観察から表現する	
8	観察から表現へ	観察 表現の過程と技法	8	観察から表現する	
9	素描と表現	素描による表現	12	表現アイデアの手法	
10	身近な生活とデッサン	自分自身をデッサンする	12	自分自身をデッサンする	
11	身近な生活とデッサン	静物をデッサンする	10	静物をデッサンする	
12	身近な生活とデッサン	石膏をデッサンする	10	石膏をデッサンする	
1	自由制作	自由制作 (デッサン)	9	作品制作	
2	自由制作	自由制作 (デッサン)	8	作品制作	
3	自由制作	自由制作 (デッサン)	8	作品完成・発表	

教科名	美術	科目名	アートⅠ	単位数	3
対象学年 学科・コース	2学年普通科 総合選択アート群	履修形態	必修	授業形態	講義・実習
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
芸術全般の基礎知識・技能の習得		実習を通し、思考力・判断力・表現力の習得		知識を身に着け、考え、実行	
学習内容の概要	デザインを中心に実用的なアートの基礎知識と技術を学びます。 基礎的技術を習得するために講義と実習を併用して行います。				
評価の観点・ 評価方法	1. 【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 定期考査と小テスト 2. 【主体的に学習に取り組む態度】 パフォーマンステストと授業中の取り組み				
使用教材	実教出版「商業技術」・アイシー「ART KIT」マンガ・イラストの描き方 日本色研「カラー&ライフ」・日本色研「色彩」				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	デザインの基礎	色々な商業デザイン デザインの領域 デザインの実際	8	企業活動とデザイン 表現の方法 実務調査	
5	色彩の基礎	色の美しさの認識 衣食住と色彩 造形学習	12	表現する喜び 色彩の大切さ 例題の作成【デッサン】	
6	マンガの描き方	漫画の基本 イラストの描き方	10	マンガの基本 例題学習	
7	イラスト実習 陶芸学習	イラスト実習 陶芸体験	8	イラスト応用 ポスターの基礎学習 専門学校にて学習	
8	グラフィックD	視覚の平面化学習	8	ポスターの基礎・例題	
9	グラフィックD	視覚の平面化学習	10	ポスターの制作	
10	デザインの制作	CDジャケット作成	12	表紙デザイン	
11	デザインの制作	自分の名前デザイン 自分の名刺デザイン	9	文字の基本 ラフデッサン	
12	プロダクトD	立体デザインの基礎	10	立体造形学習（粘土） パッケージデザイン	
1	プロダクトD	立体デザインの応用	10	立体造形学習（粘土） カードデザイン	
2	プロダクトD	立体デザインの制作	10	造形学習（作図）試作	
3	プロダクトD	立体デザインの完成 シルバージュエリー	10	中間発表・最終決定 銀粘土造形（完成）	